

統計データ及び市民アンケート調査結果から見た知多市民の特性

【要旨】

＜統計データから見た知多市民のすがた＞

平成 27 年国勢調査結果から以下のような知多市の特性がうかがえる。

- 知多市の性比は男女ほぼ同じであり、男性比率が高くなる東海市や大府市など製造業の盛んな都市とは異なる。
- 女性だけでなく男性を含めて、市外から転入してきた人が多く、その居住期間も長い。特に、賃貸住宅に居住する居住期間の短い人が少ないことも特徴である。
- 世帯主が 60～74 歳である世帯を中心として、夫婦のみによる二世帯が多い。18 歳未満の子どものいる世帯は 1/4 程度にとどまり、子どもが独立した世帯が多い。
- 単独世帯は、高齢者のみにとどまらない。未婚化の影響により年代を問わずひとり暮らしの市民が多くなっている。
- 男性は正規の職員・従業員が約 7 割、女性はパート・アルバイト等が約 5 割を占めているが、男女ともに多くが市外で働いており、生活する都市としての様相が強い。

＜市民アンケート調査結果から見た知多市民のすがた＞

属性クロス集計結果から以下のような知多市の特性がうかがえる。

- 知多市は転勤者が一次的に生活する都市でなく、住宅を所有し定住するまちとして発展してきた。長きにわたって暮らしている市民が多く、まちは成熟している。
- そのため、古くからの友人・知人が近隣に住んでおり、こうした人たちとの時間を楽しむ市民が多い。
- 性別・年齢を問わず、健康やスポーツに高い関心を抱いている市民が多い。
- 名古屋市に通勤する人が多いものの、休日は地元でゆっくり過ごす人が多く、多くの人は買い物を楽しむとともに、年配者は農作業や庭の手入れ、中年男性はドライブなどを行っている。
- 市域が狭いこともあり、市民の活動は、市域を超えて広がっている。特に、市内で買い物や外食を十分に楽しめていないため、女性を中心に積極的に市外に出向いている。
- 市民が知多市に対して抱くイメージは、40 歳代や 50 歳代を中心に悪い。特に、買い物や外食の魅力に欠けているとともに、まちの活気に対して不満を抱いている。知多市が一番暮らしやすいと考える市民は少数派であり、東海市の方が暮らしやすいと感じている。

＜統計データから見た知多市民のすがた＞

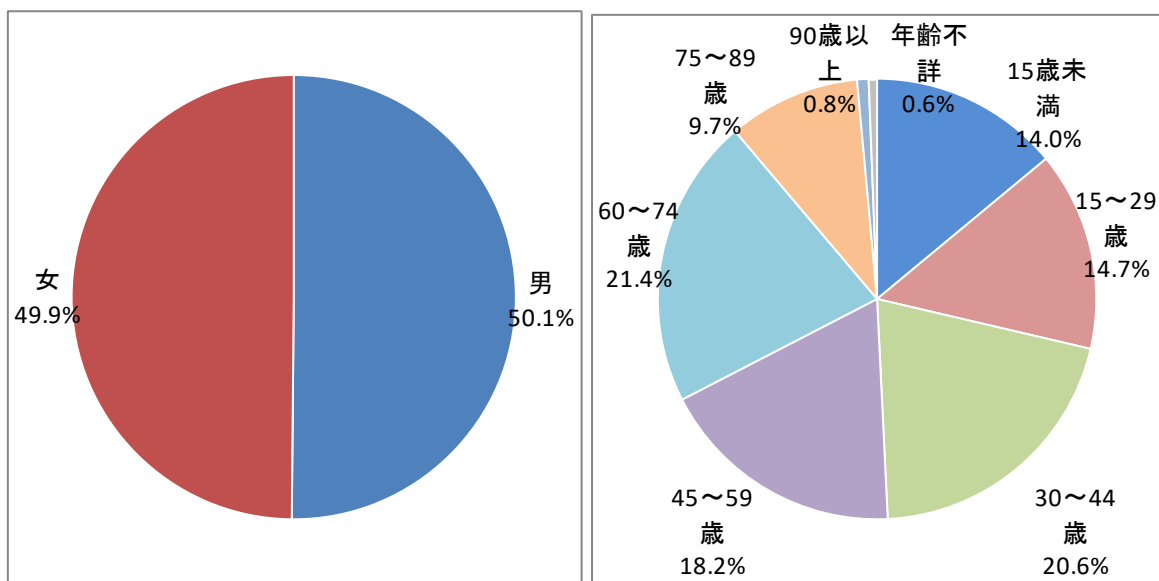
1. 市民特性

(1) 性比及び年齢区分別人口構成比

2015 年国勢調査人口によると、知多市民の男女比はほぼ同数。15 歳ごとの年齢区分では、60～74 歳が最も多い。15 歳未満は 14.0%で、その 2/3 程度にとどまる。

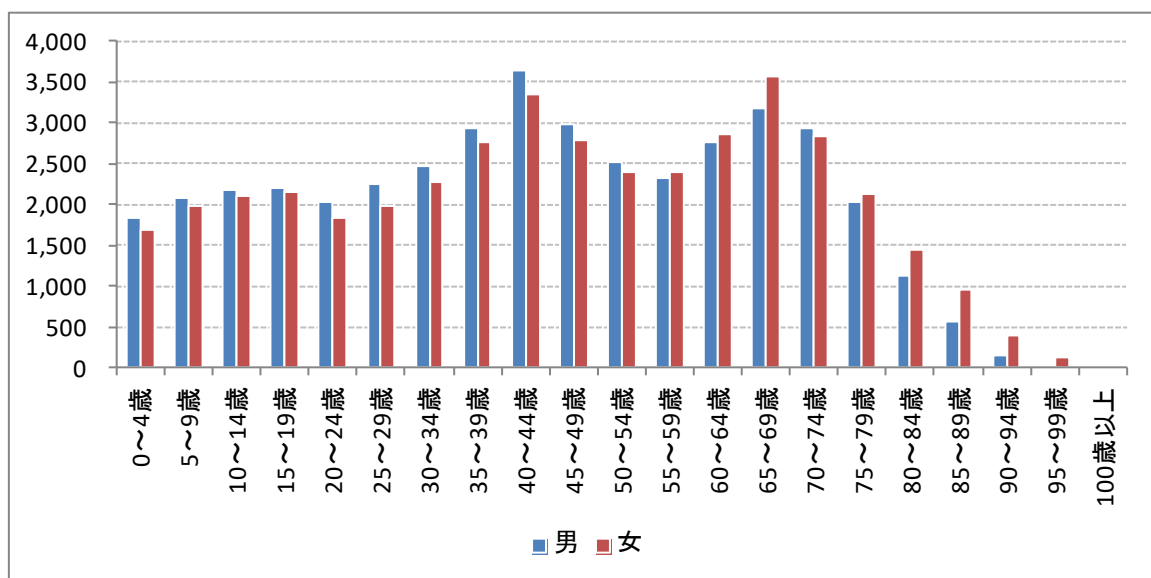
年齢 5 歳階級別でみると、女性では団塊世代（1947～49 年生まれ）が含まれる 65～69 歳が最も多く、男性では団塊ジュニア（1971～74 年生まれ）が含まれる 40～44 歳が最も多い。

図表 1 性比＜左側＞及び年齢区分別人口構成比＜右側＞



出典：総務省「国勢調査」

図表 2 年齢 5 歳階級別・男女別人口

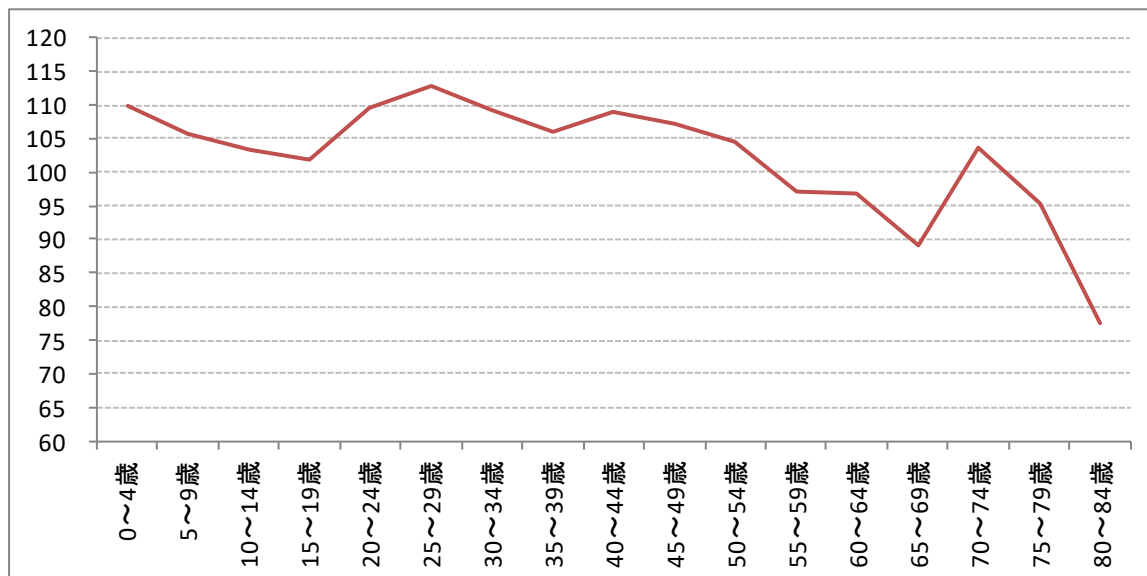


出典：総務省「国勢調査」

(2) 年齢 5 歳階級別性比<女性人口=100 とした男性人口比>

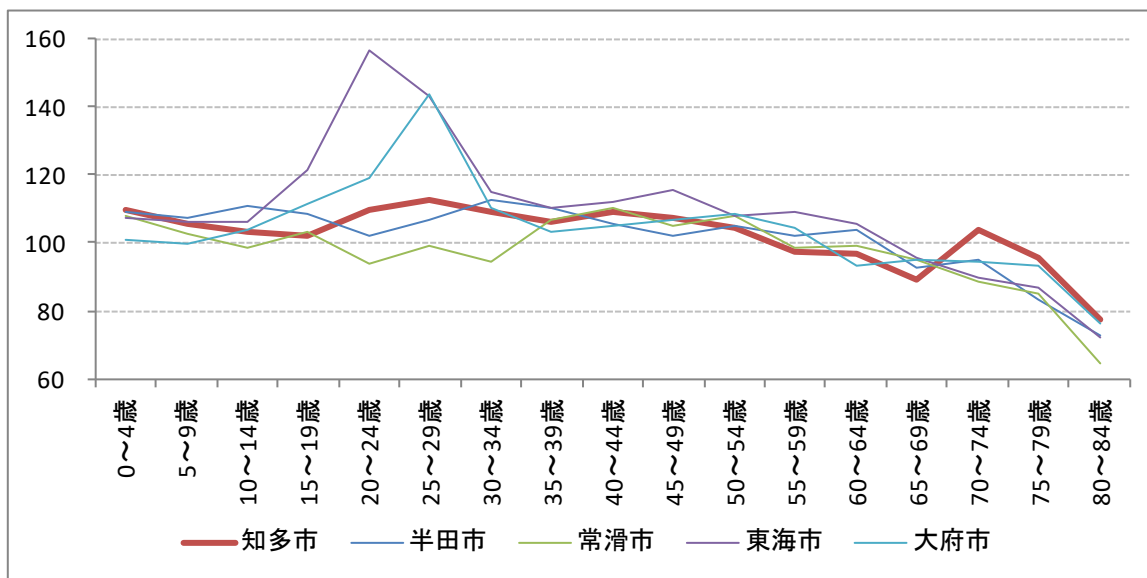
20～29 歳で 110 を超える。当該年齢階級で半田市や常滑市を上回るものの、大府市や東海市のように製造業就業者数の多い都市と比べると高くない。

図表 3 年齢 5 歳階級別性比<女性人口=100 とした男性人口比>



出典：総務省「国勢調査」

図表 4 年齢 5 歳階級別性比<女性人口=100 とした男性人口比> (知多半島地区の市)

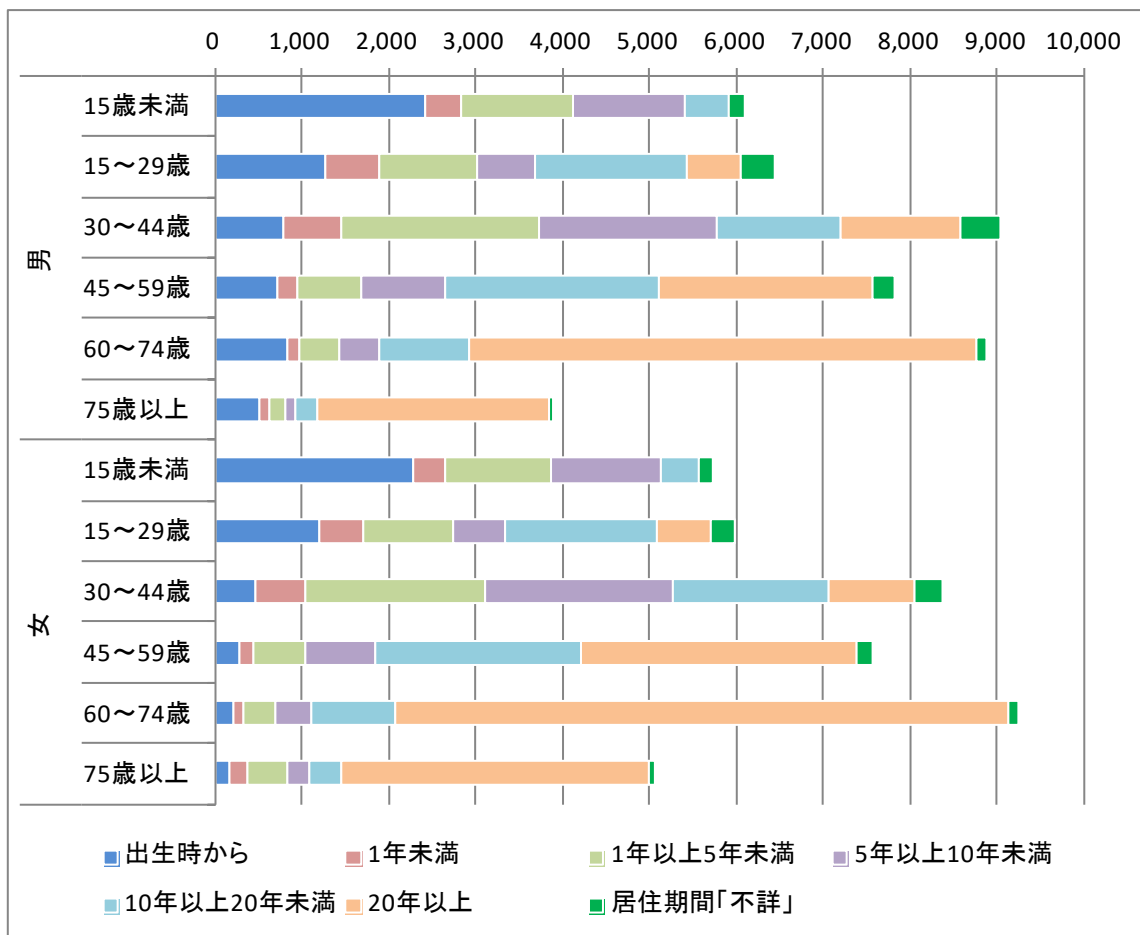


出典：総務省「国勢調査」

(3) 年齢区分別居住期間

45 歳以上の年齢区分では、「20 年以上」が「出生時から」を上回り最も多くなる。そのため、就職や結婚、住宅取得を契機に知多市に転入した人が多いことが想定される。また、30～44 歳でも、「1 年以上 5 年未満」と「5 年以上 10 年未満」が最も多くなっており、知多市は何らかの要因により転入してくる人が多いまちであると考えられる。

図表 5 年齢区分別・男女別居住期間

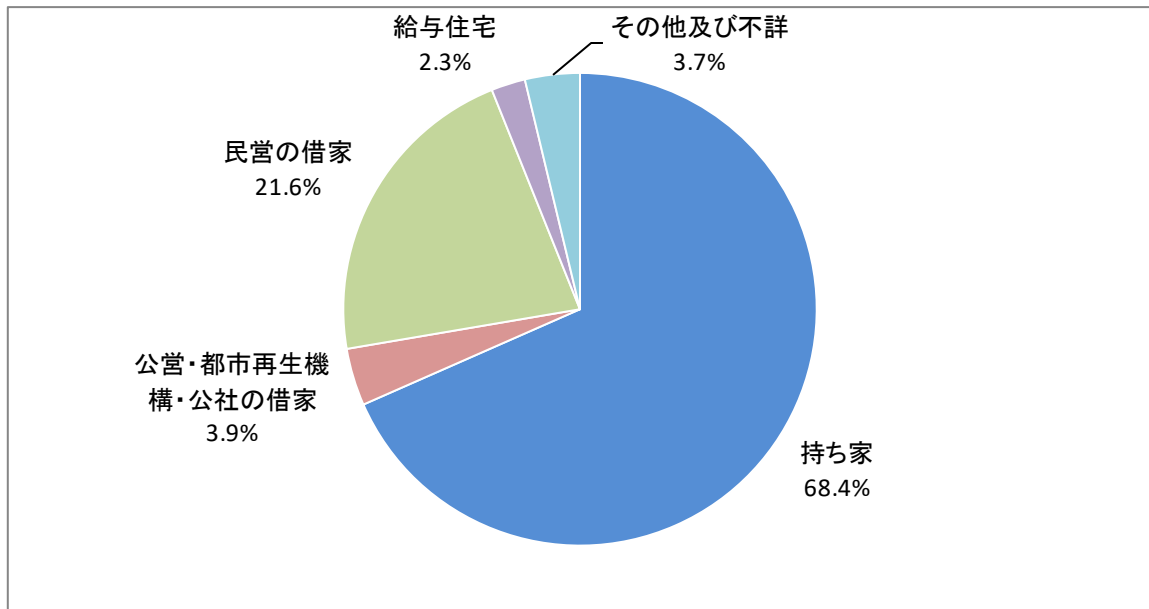


出典：総務省「国勢調査」

(4) 住宅の種類

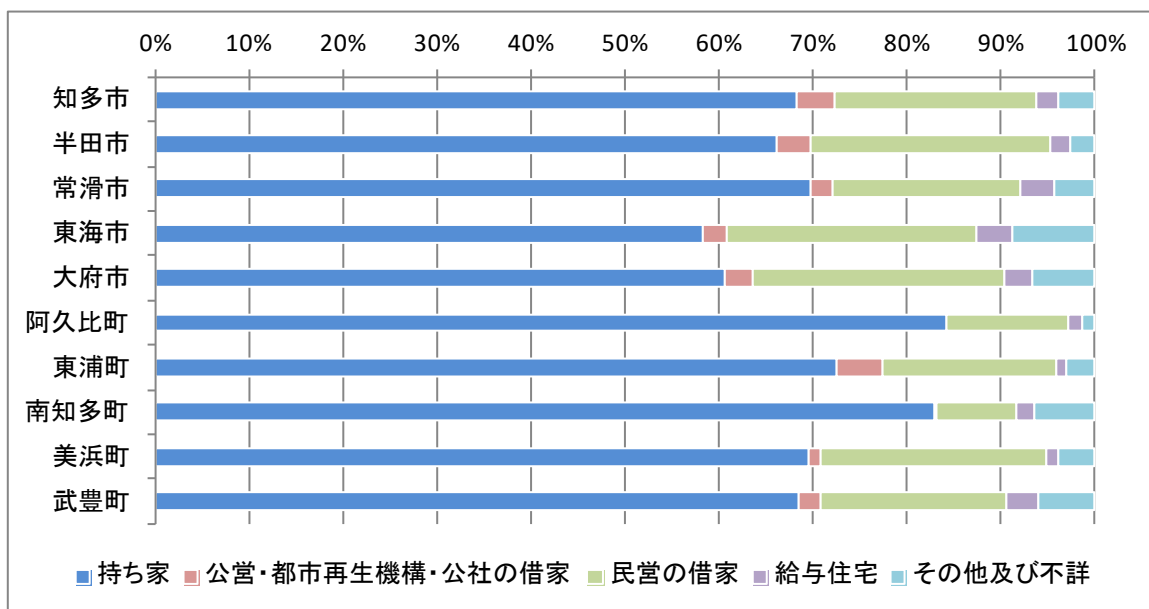
「持ち家」が約 7 割を占めている。年齢区分別居住期間の傾向を踏まえると、市外から転入して持ち家取得している人が多いと考えられる。知多半島地区の中でも、東海市や大府市に比べて「持ち家」の割合が高いことから、製造業への就職をきっかけに転入し賃貸住宅に居住している人は両市に比べて少ないと予想される。

図表 6 住宅の種類別による世帯構成



出典：総務省「国勢調査」

図表 7 住宅の種類別による世帯構成（知多半島地区）



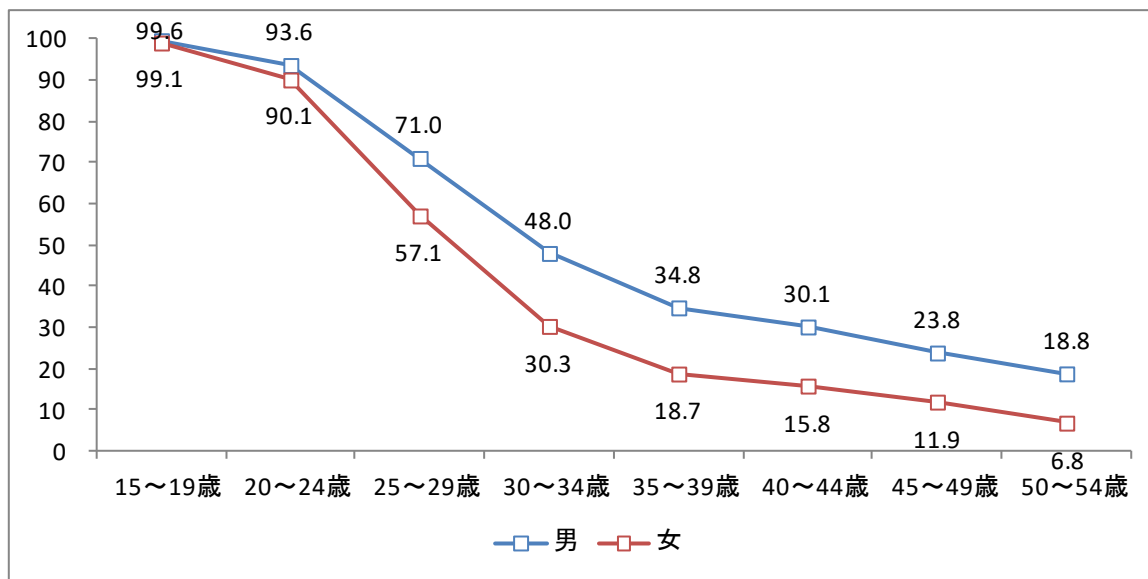
出典：総務省「国勢調査」

(5) 年齢階級別未婚率

30～34 歳で結婚している人は、男性で約 5 割、女性で約 7 割となる。50 歳まで一度も結婚をしたことがない人の割合をいう生涯未婚率（45～49 歳の未婚率と 50～54 歳の未婚率の平均を用いる）は、男性で 21.3%、女性で 9.3%となる。

これは全国の男性の 23.37%、女性の 14.06%を下回るものであるが、持ち家取得を契機として転入する人が多いことを考えると、市内で生まれ育った人の未婚化が進行していないとは言い切れない。

図表 8 年齢階級別未婚率



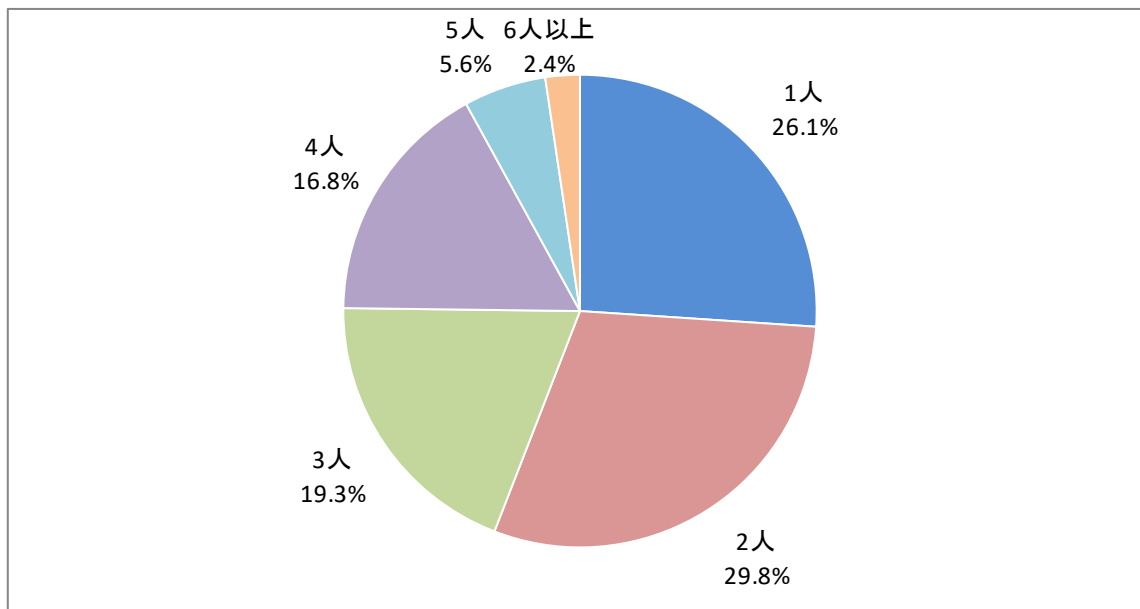
出典：総務省「国勢調査」

2. 世帯特性

(1) 世帯人員

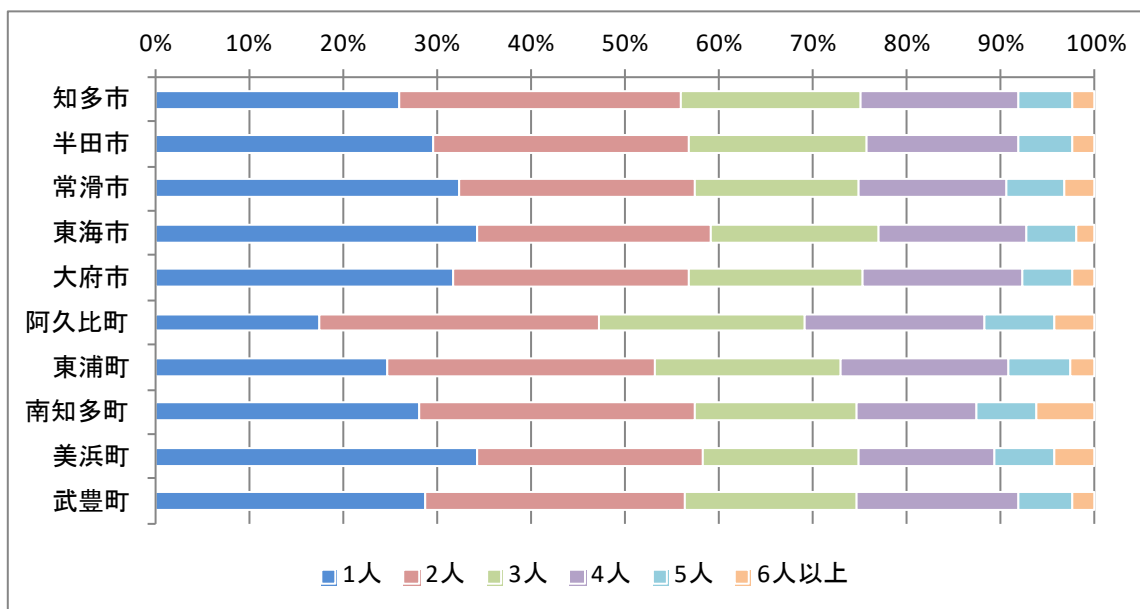
最も多いのは「2人」で全体の3割を占めており、次いで多い「1人」を合わせると5割を超える。知多半島地区の5市のなかで1人世帯が最も少ない一方で、2人世帯が最も多くなる。

図表 9 世帯人員



出典：総務省「国勢調査」

図表 10 世帯人員（知多半島地区）



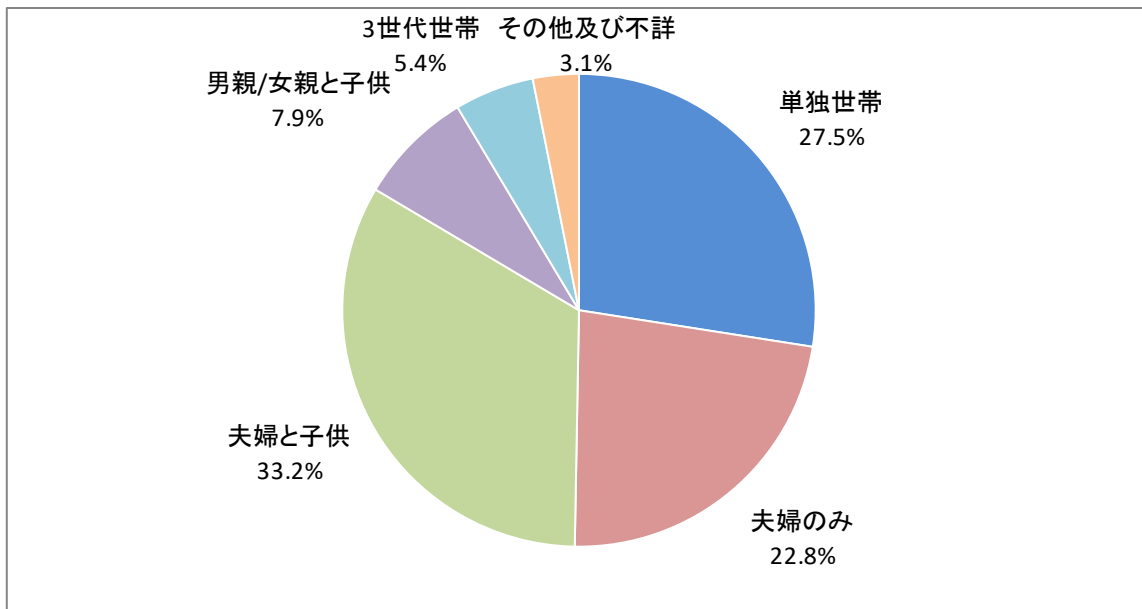
出典：総務省「国勢調査」

(2) 世帯構成（一般世帯の構成）

世帯構成で見ると、「夫婦と子ども」が全体の約 1/3 を占め、最も多くなる。母子・父子家庭は約 8%、3 世代同居世帯は約 5%となる。

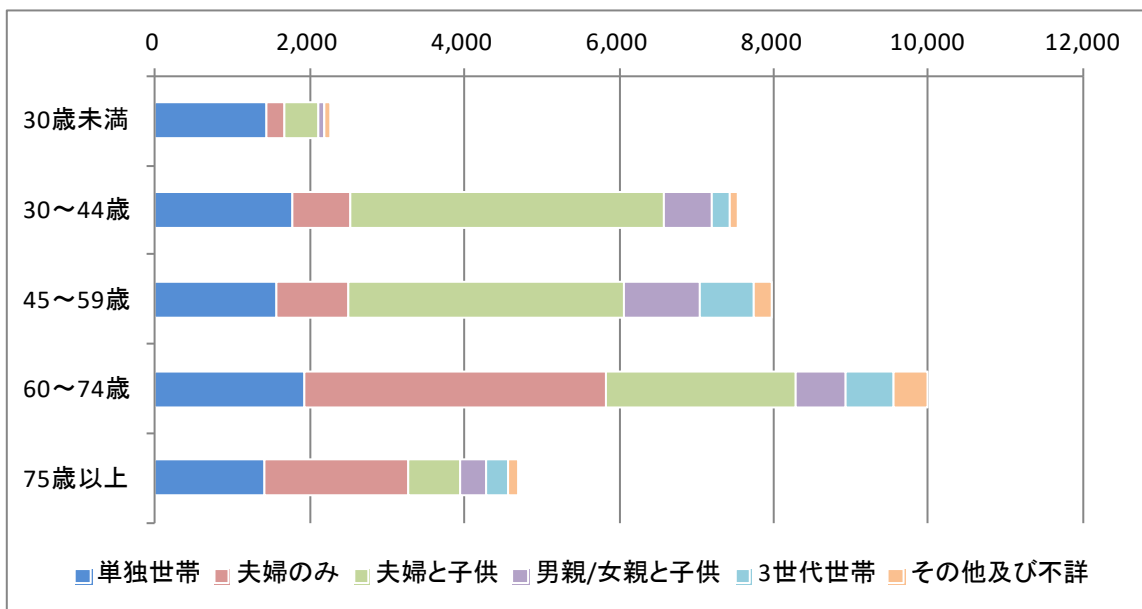
これを世帯主の年齢区分で見ると、60～74 歳で「夫婦のみ」の割合が多く、これらの世帯では子ども世帯が独立した可能性が考えられる。また、「単独世帯」は世帯主の年齢区分を問わず、一定数存在し、世帯主が 75 歳以上で約 3 割、30 歳未満で約 6 割を占める。

図表 11 世帯構成



出典：総務省「国勢調査」

図表 12 世帯主の年齢区分別による世帯構成



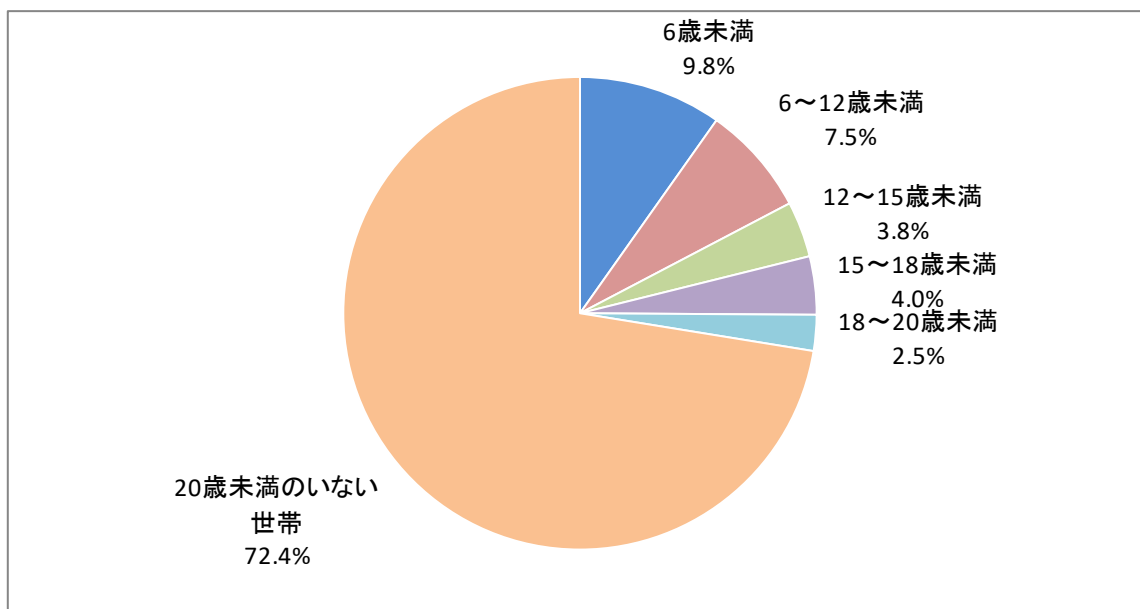
出典：総務省「国勢調査」

(3) 子どものいる世帯

全ての一般世帯のうち約 1/4 で 18 歳までの子どもがいる。6 歳未満のいわゆる未就学児は、全体の約 1 割となる。

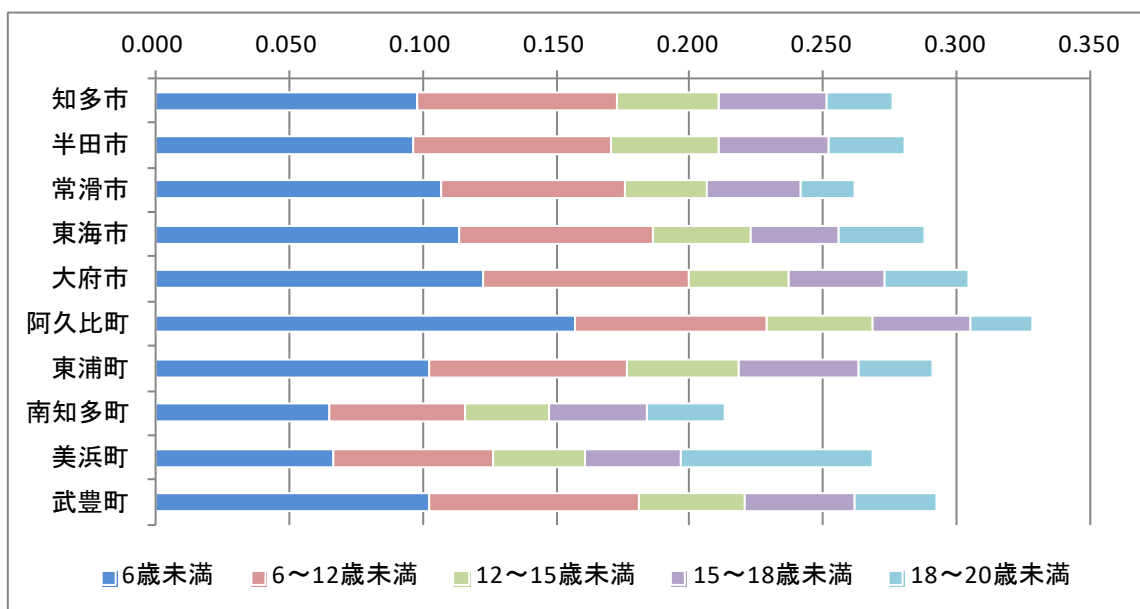
知多半島地区の中で、20 歳未満の子どものいる世帯の割合は、大府市や東海市に比べて少なく、特に 6 歳未満の少なさが大きく影響している。両市に比べて賃貸住宅に居住する世帯比率が少なく、このことが少なからず影響していると推察される。

図表 13 子どものいる世帯の割合



出典：総務省「国勢調査」

図表 14 子どものいる世帯の割合（知多半島地区）



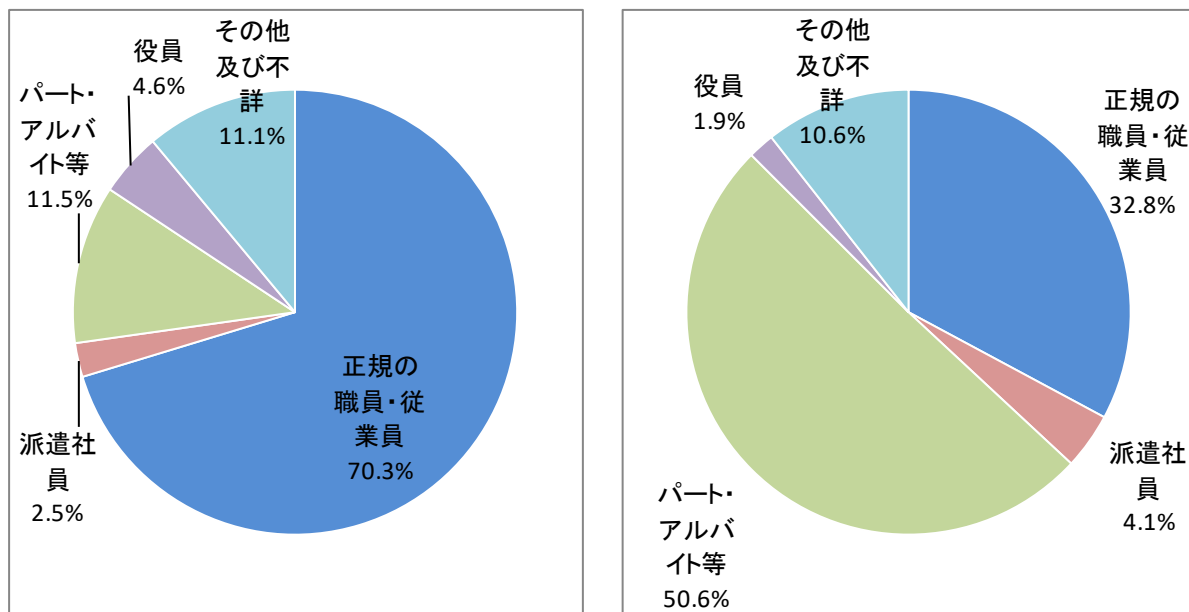
出典：総務省「国勢調査」

3. 職業

(1) 従業上の地位

男性の約 7 割が「正規の職員・従業員」、女性の約 5 割が「パート・アルバイト等」である。

図表 15 従業上の地位（左：男、右：女）

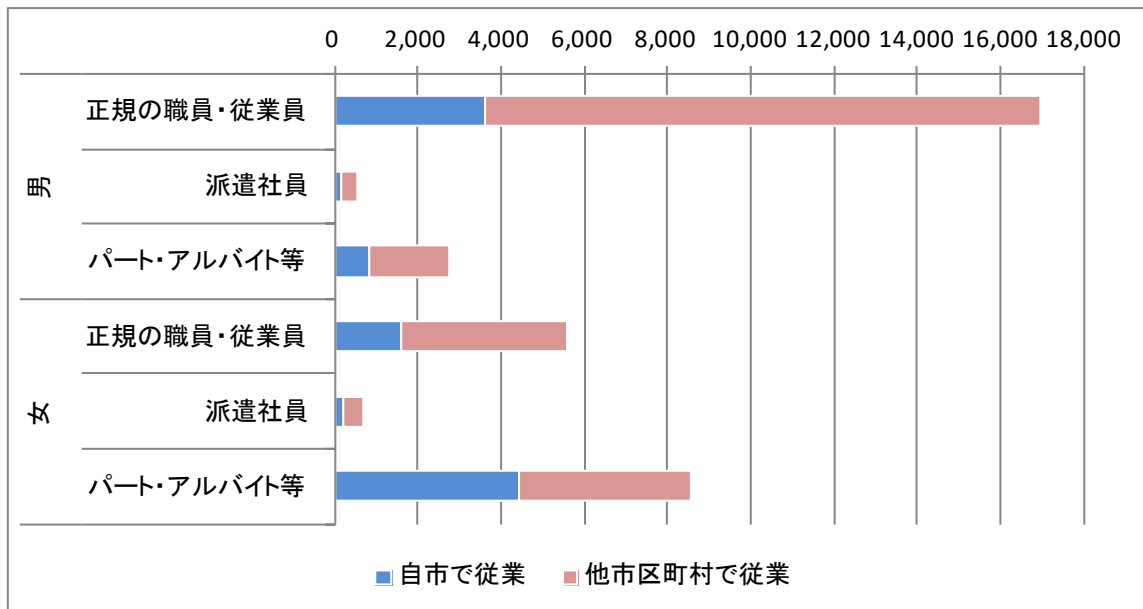


出典：総務省「国勢調査」

(2) 雇用者の従業上の地位別従業地

男性の正規の職員・従業員をはじめ、全ての地位で「他市区町村で従業」する割合が高い。

図表 16 雇用者の従業上の地位別従業地

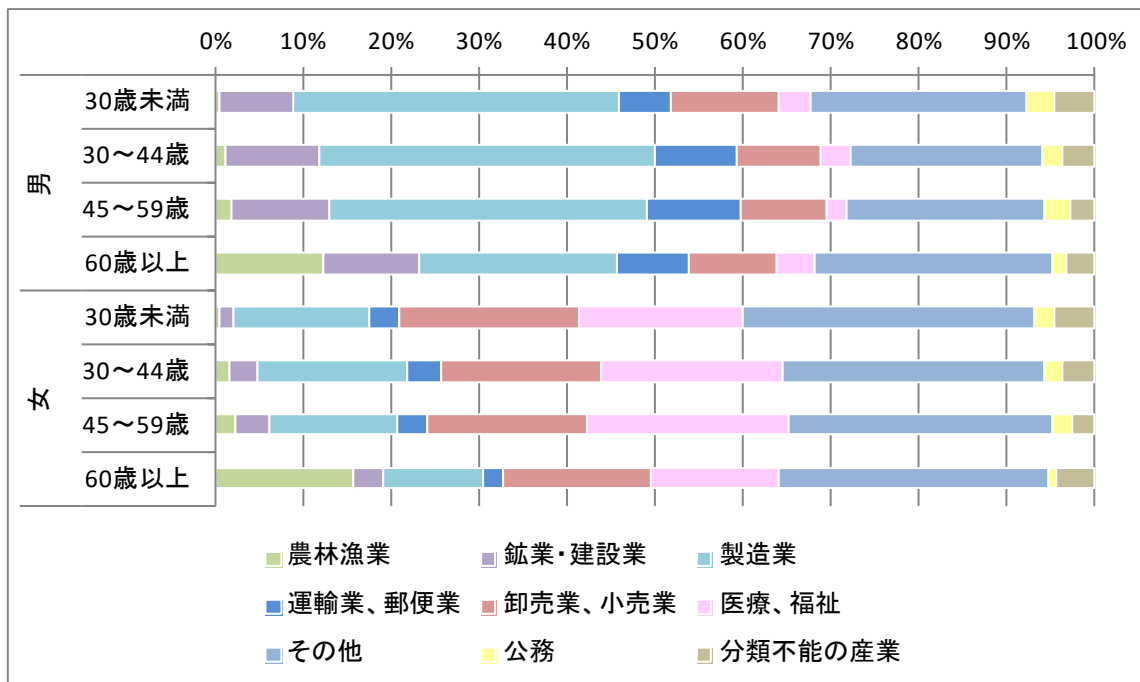


出典：総務省「国勢調査」

(3) 産業別による就業構造

男性の30歳未満、30～44歳、45～59歳の各年齢区分において、「製造業」が最も多く4割近くを占める。女性の場合、全ての年齢区分において、「卸売業、小売業」と「医療、福祉」が上回り、男性の就業構造と大きく異なる。

図表 17 年齢区分別産業別就業者の割合

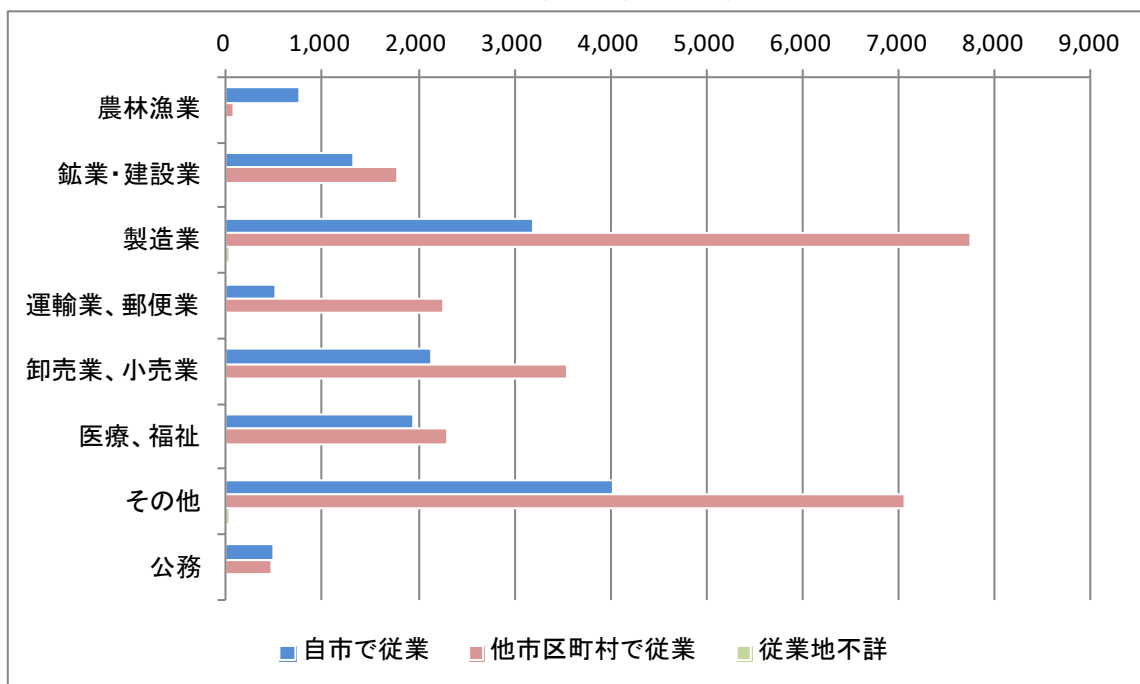


出典：総務省「国勢調査」

(4) 産業別就業者の従業地

製造業の就業者の7割以上が「他市区町村で従業」となっていることをはじめ、農林漁業を除き市外に通勤している。

図表 18 産業別就業者の従業地



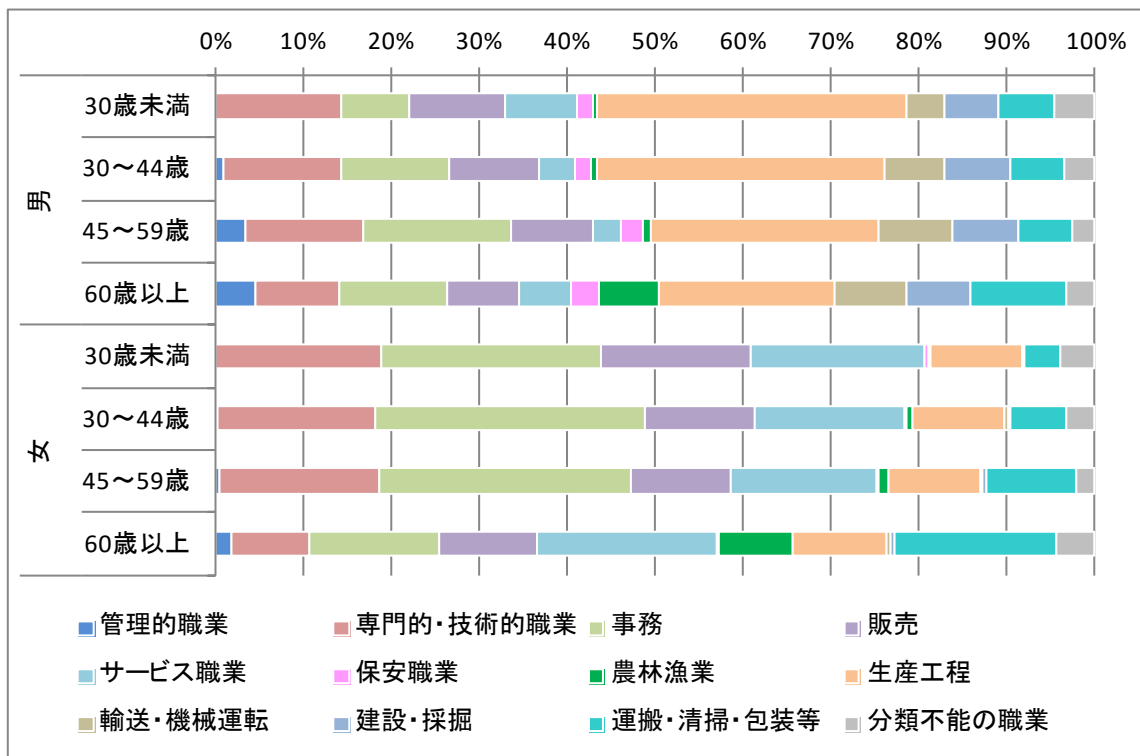
出典：総務省「国勢調査」

(5) 産業別による就業構造

男性は、30歳未満及び30～44歳で、「生産工程」が最も多く3割を超える。45～59歳では、「事務」の割合が高くなる。

女性は、30歳未満、30～44歳、45～59歳において、「事務」が最も多く3割前後に達する。また、「専門的・技術的職業」や「サービス職業」も2割近く見られる。

図表 19 年齢区分別職業別就業者の割合



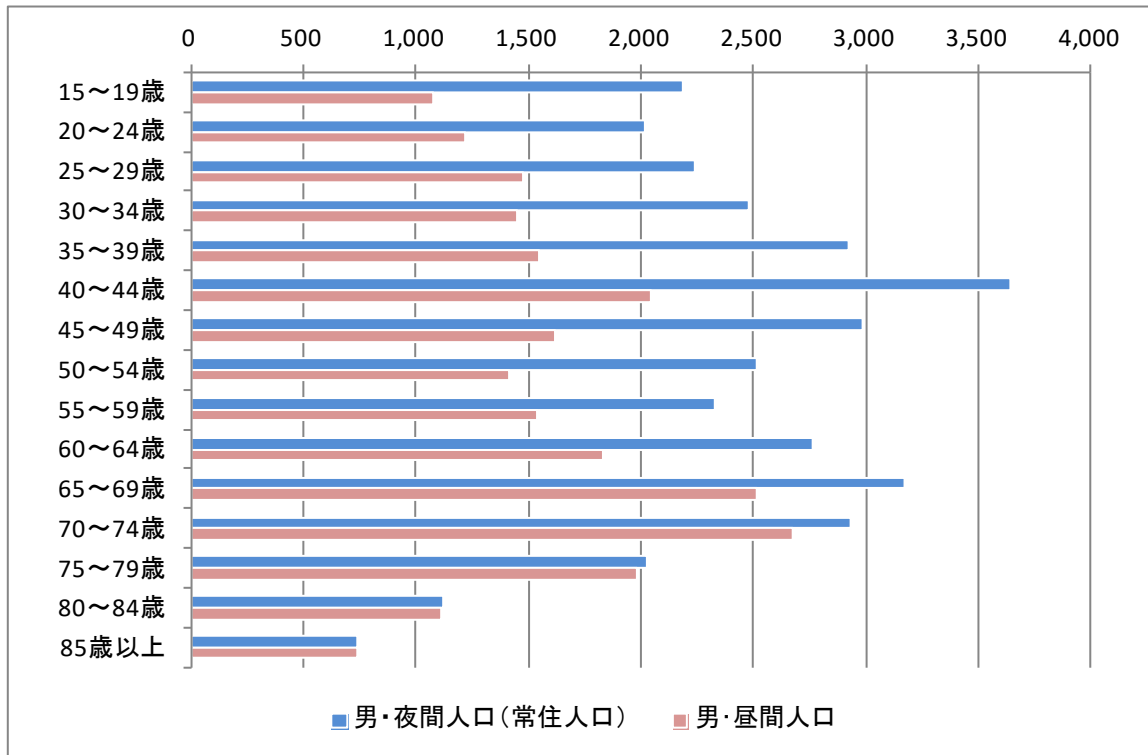
出典：総務省「国勢調査」

4. 通勤・通学

(1) 年齢階級別昼間人口

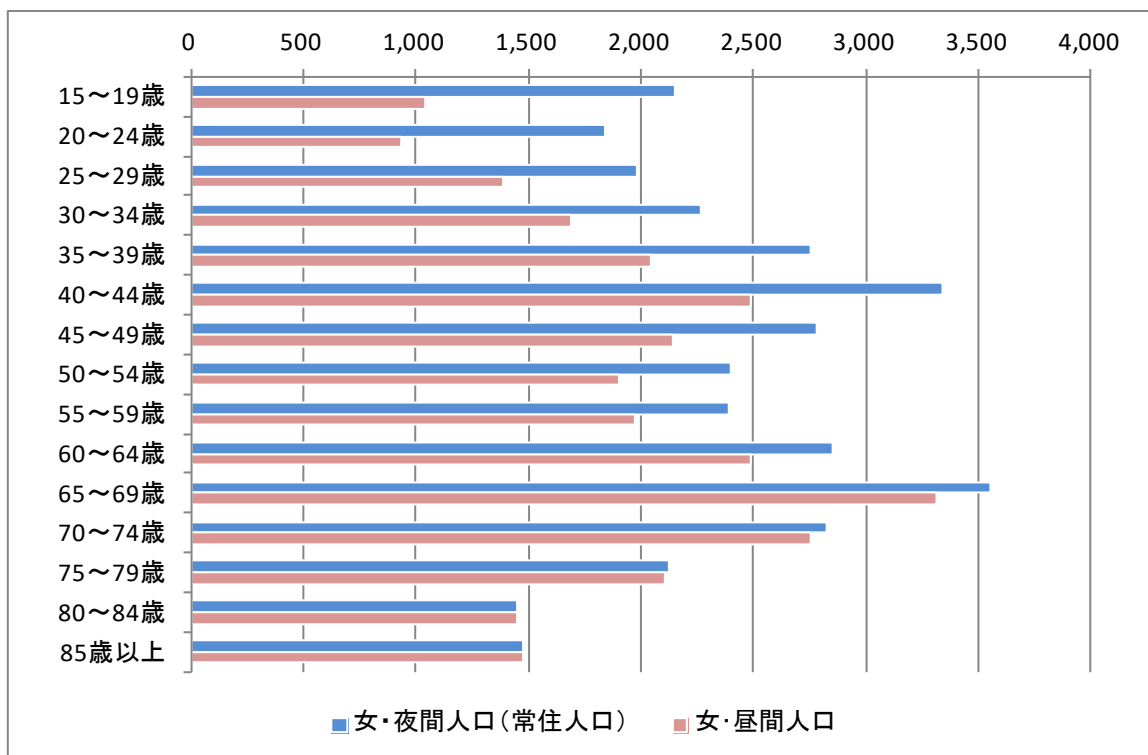
「15～19 歳」から「60～64 歳」までの年齢階級の昼間人口が夜間人口（常住人口）を大きく下回る。特に男性で顕著である。

図表 20 昼間人口及び夜間人口＜男＞



出典：総務省「国勢調査」

図表 21 昼間人口及び夜間人口＜女＞

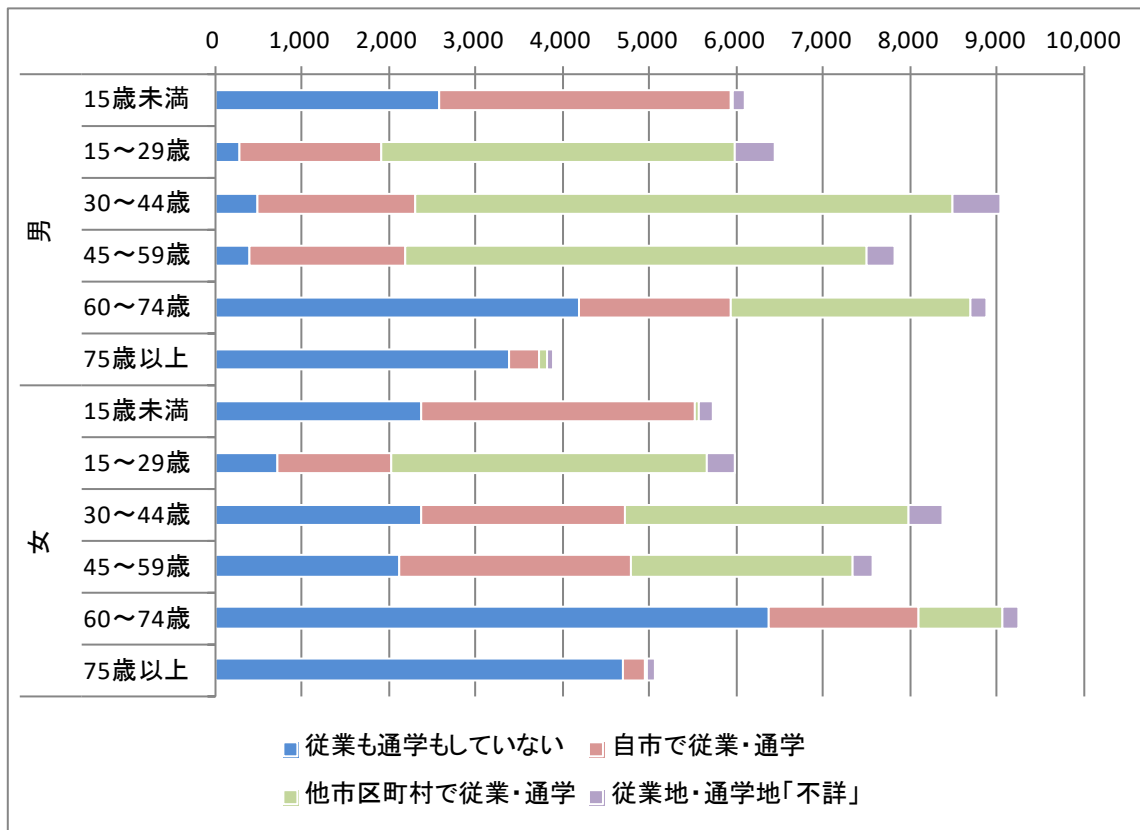


出典：総務省「国勢調査」

(2) 年齢区分別による従業・通学

15歳から59歳までの階級において、「他市区町村で従業・通学」する人が、「自市で従業・通学」する人を大きく上回る。市民の多くが市外で従業・通学していることが、昼間人口が夜間人口（常住人口）を下回る要因となっている。

図表 22 年齢区分別による従業・通学



出典：総務省「国勢調査」

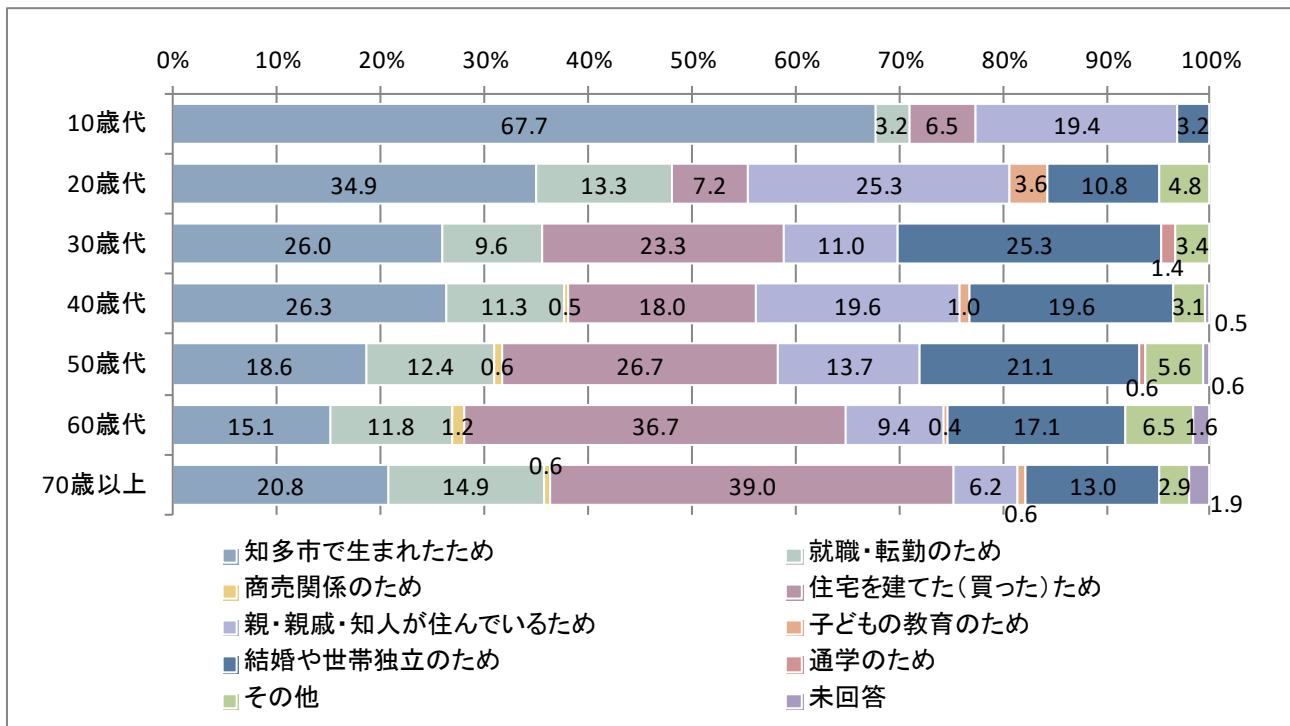
＜市民アンケート調査結果から見た知多市民のすがた＞

5. 知多市に居住した経緯と今後の見通し

(1) 知多市に居住したきっかけ＜年齢階級別＞

- ・ 50 歳代より上の世代は、「住宅を建てた（買った）ため」に居住した人が多い。
- ・ 40 歳代までの世代は、「知多市で生まれたため」に居住している人が多くなる。特に 20 歳代より下の世代では、「親・親戚・知人が住んでいるため」も多く、本人の意志で居住地を選択することなく居住している人が殆どとなる。

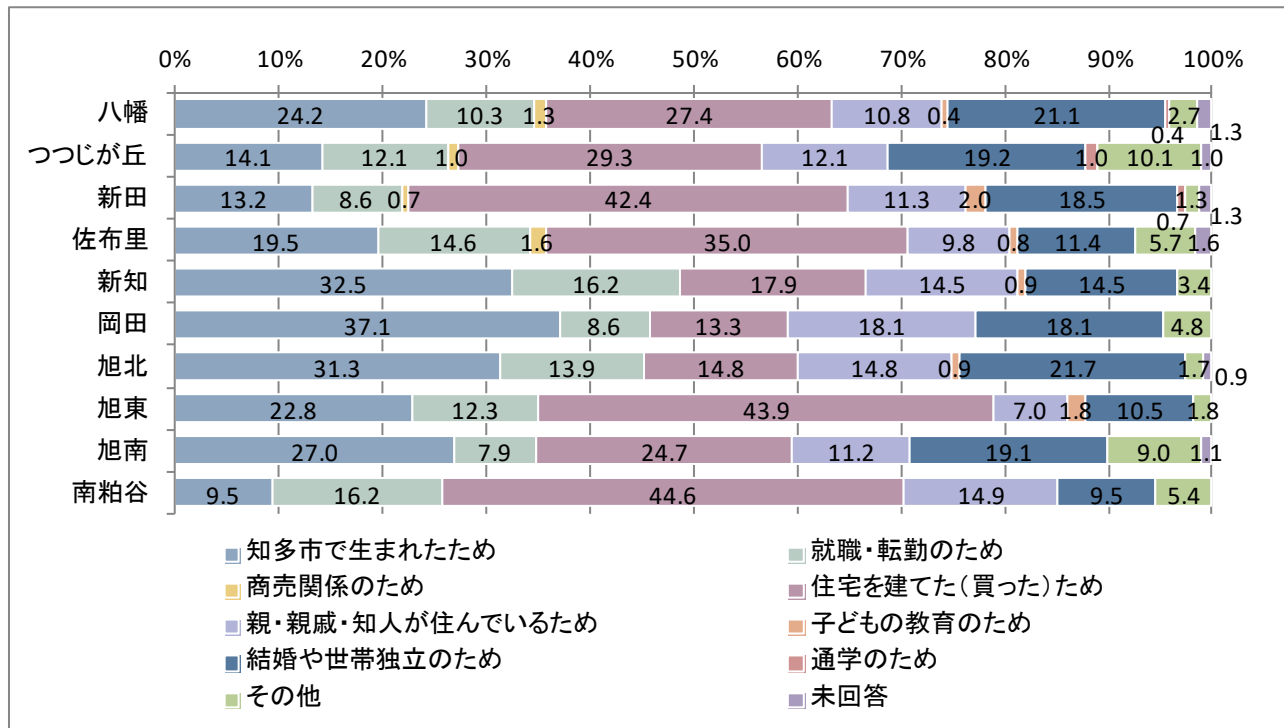
図表 23 知多市に居住したきっかけ＜年齢階級別＞



(2) 知多市に居住したきっかけ<地区別>

- ・ 南粕谷や旭東、新田、佐布里では、「住宅を建てた（買った）ため」が多い。
- ・ 岡田や新知、旭北では、「知多市で生まれたため」が多く、地区が成熟していると考えられる。

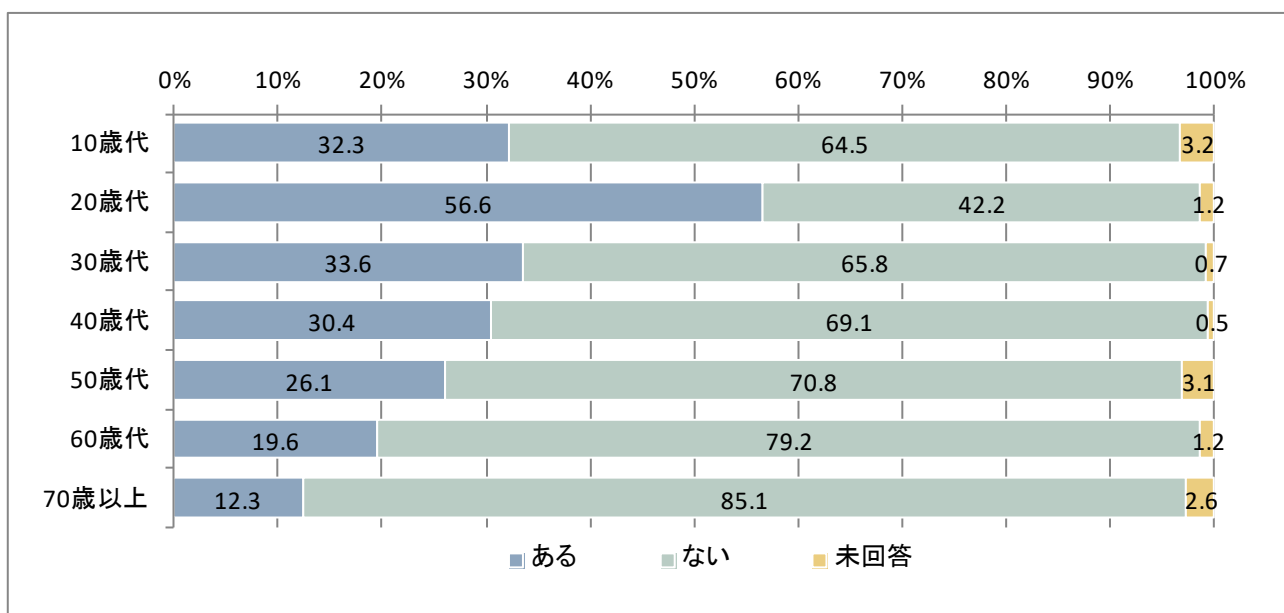
図表 24 知多市に居住したきっかけ<地区別>



(3) 現在住んでいる家から住み替え（引越し、建替えを含む）する可能性<年齢階級別>

- ・ 若い年齢階級ほど高いが、50歳代でも1/4が住み替えする可能性が高いとしている。

図表 25 現在住んでいる家から住み替え（引越し、建替えを含む）する可能性<年齢階級別>

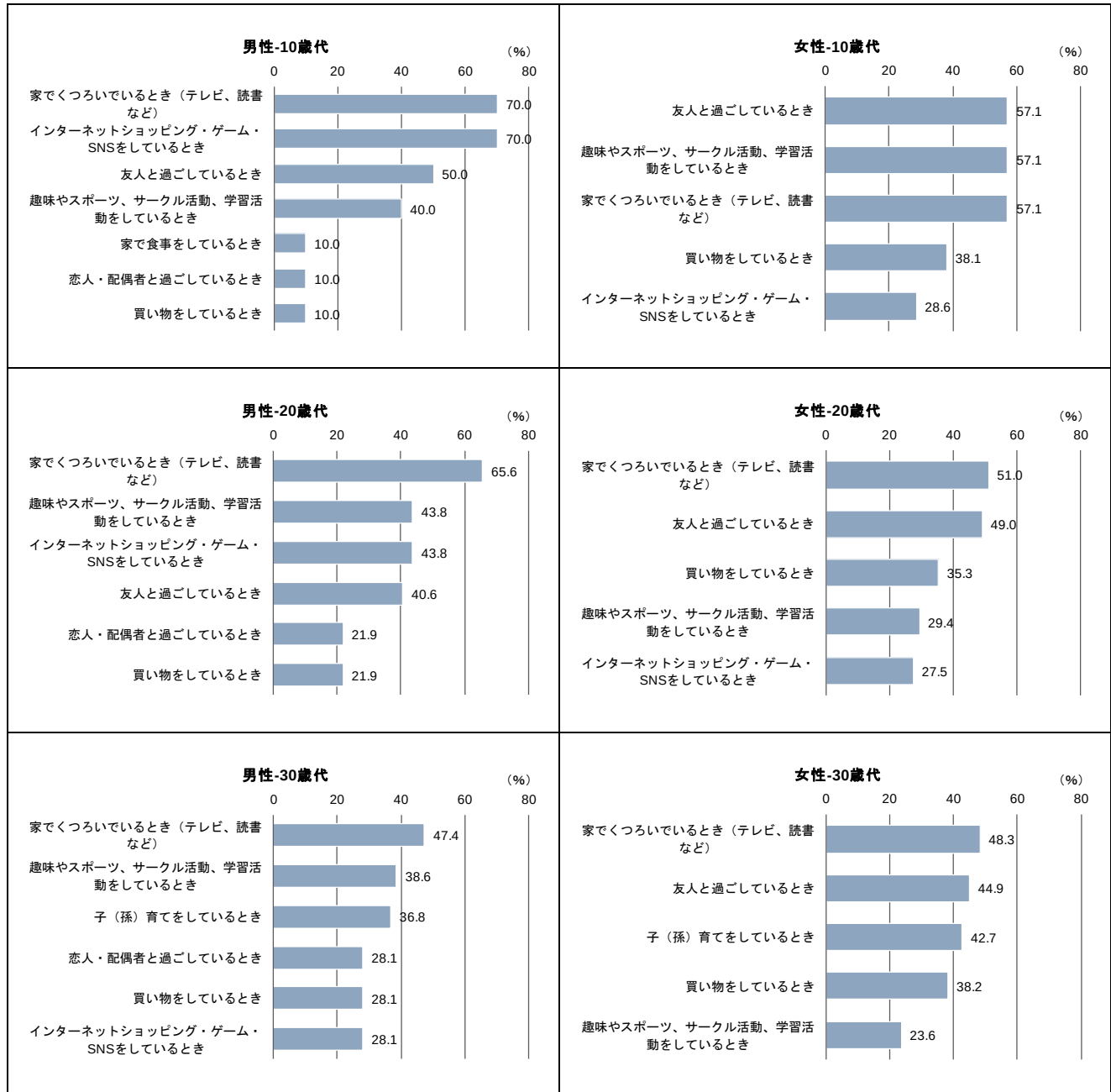


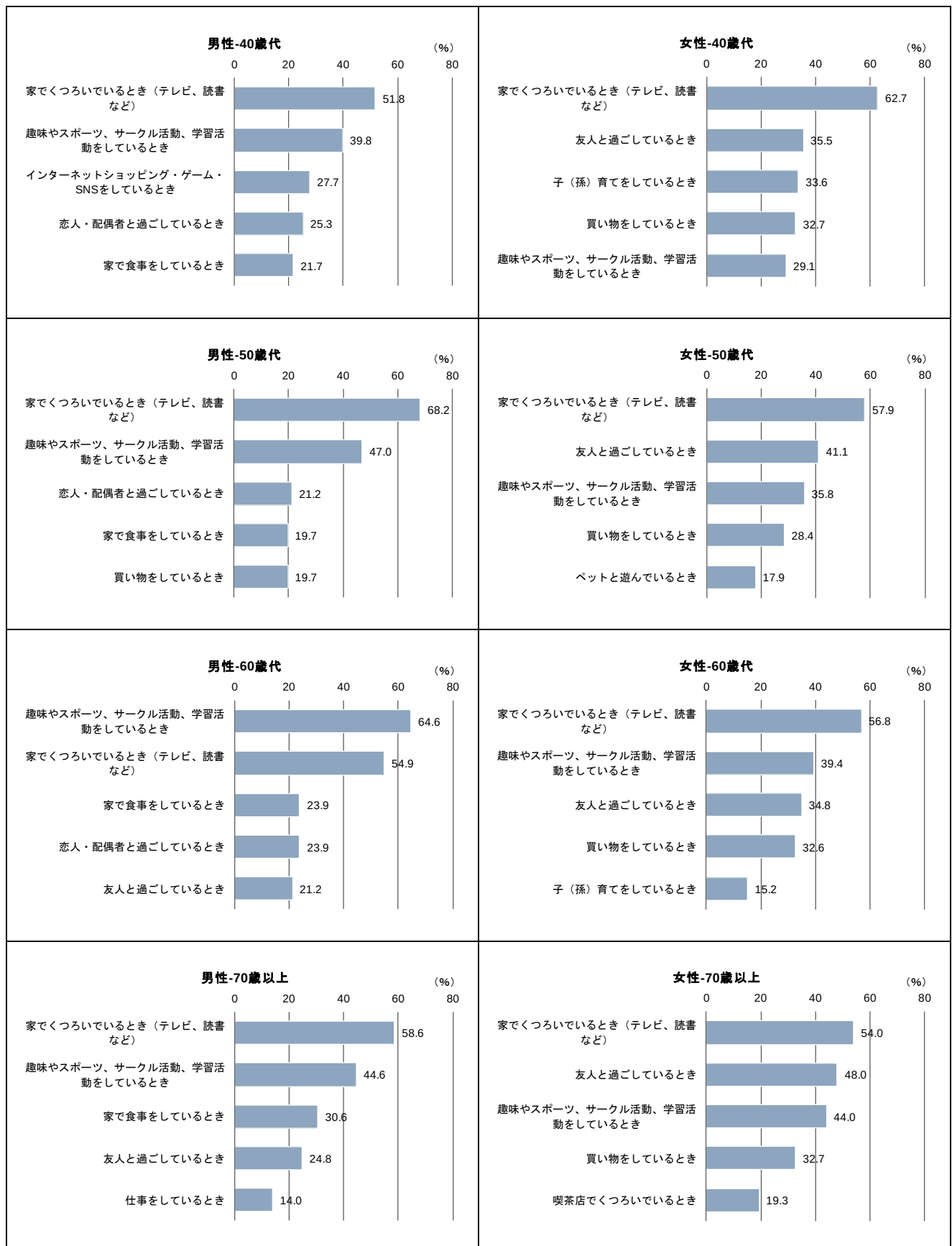
6. 日常生活行動について

(1) 日頃楽しいと感じること＜性別・年齢階級別＞

- ・ 「家でくつろいでいるとき」や「趣味やスポーツ、サークル活動、学習活動をしているとき」は性別・年齢を問わず多い。
- ・ 女性は年齢を問わず、「友人と過ごしているとき」や「買い物をしているとき」を楽しんでいる。
- ・ 若い年齢階級も「友人と過ごしているとき」が多くなる傾向にある。
- ・ 40歳代より上の年齢階級の男性は、「家で食事をしているとき」が多い。

図表 26 日頃楽しいと感じること＜性別・年齢階級別＞

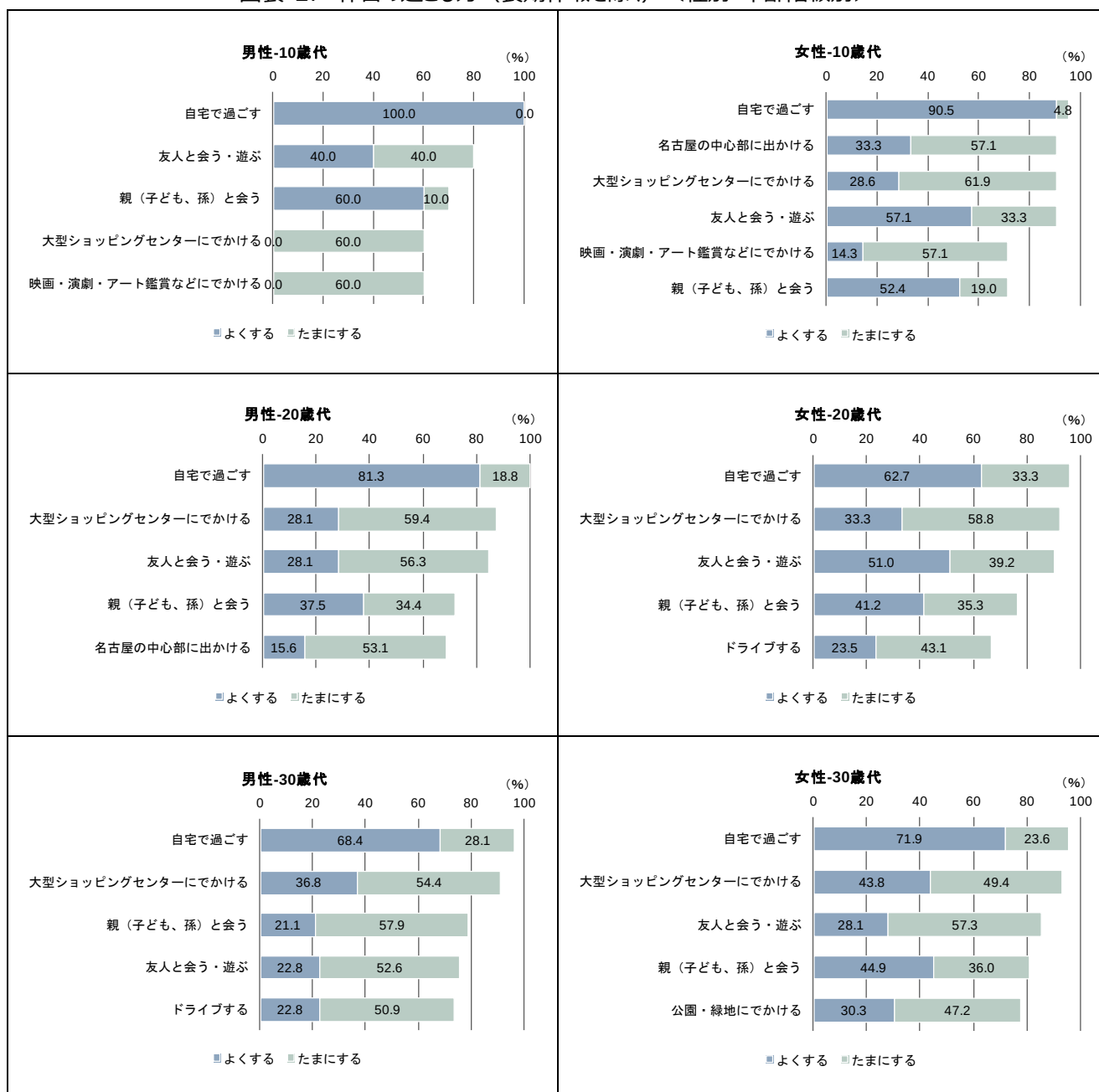


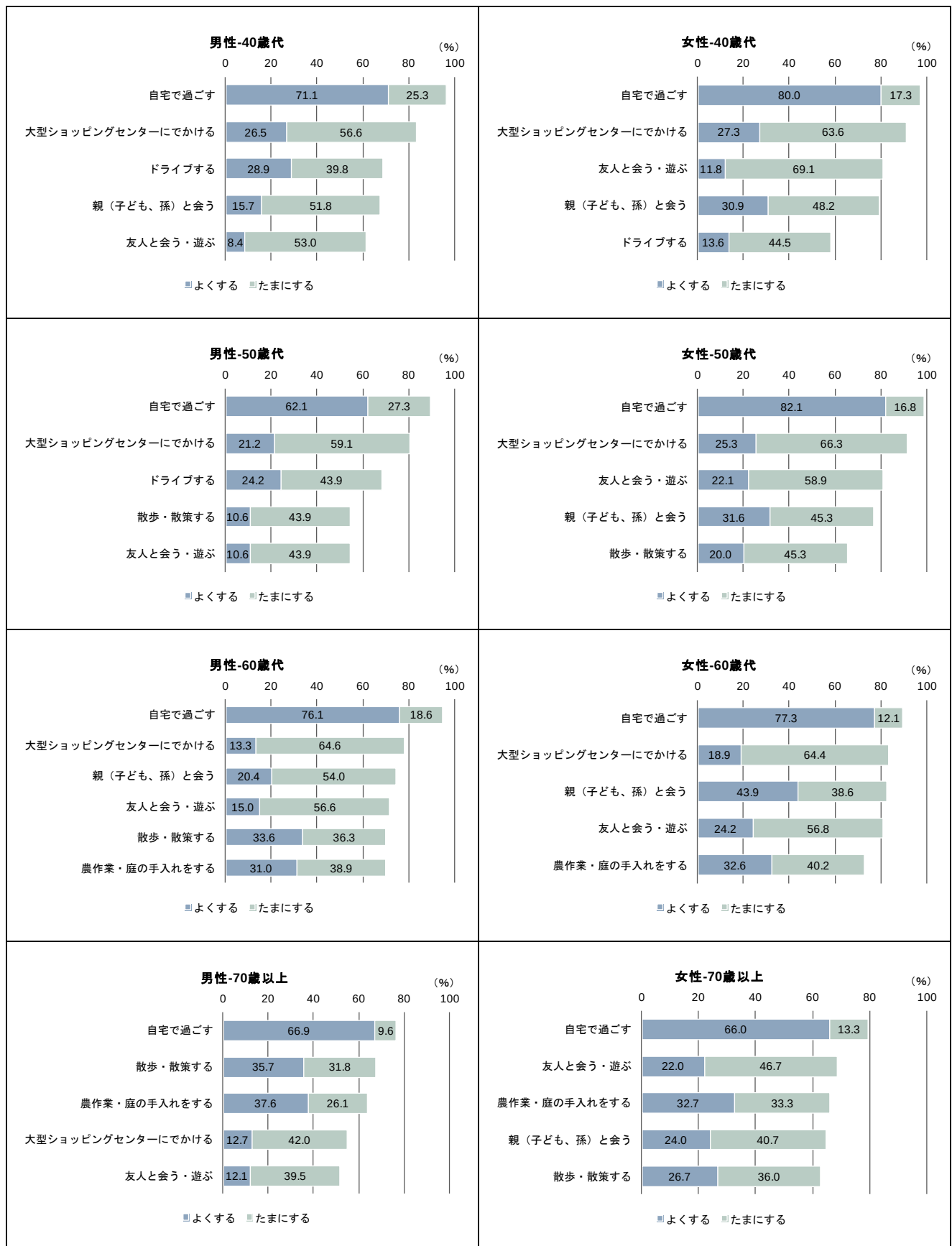


(2) 休日の過ごし方（長期休暇を除く）＜性別・年齢階級別＞

- ・ 上位となる項目は、平日と休日とも傾向が変わらない。
- ・ 性別・年齢を問わず「自宅で過ごす」が最も多い。
- ・ 「大型ショッピングセンターにでかける」や「友人と会う・遊ぶ」は性別・年齢を問わず多い。
- ・ 「親（子ども、孫）と会う」も、性別・年齢を問わず多いものの、男性・50歳代の上位項目に入らない。
- ・ 男性の30～50歳代で、「ドライブする」が多くなる。
- ・ 性別を問わず60歳代以上で「農作業・庭の手入れをする」が多くなる。

図表 27 休日の過ごし方（長期休暇を除く）＜性別・年齢階級別＞

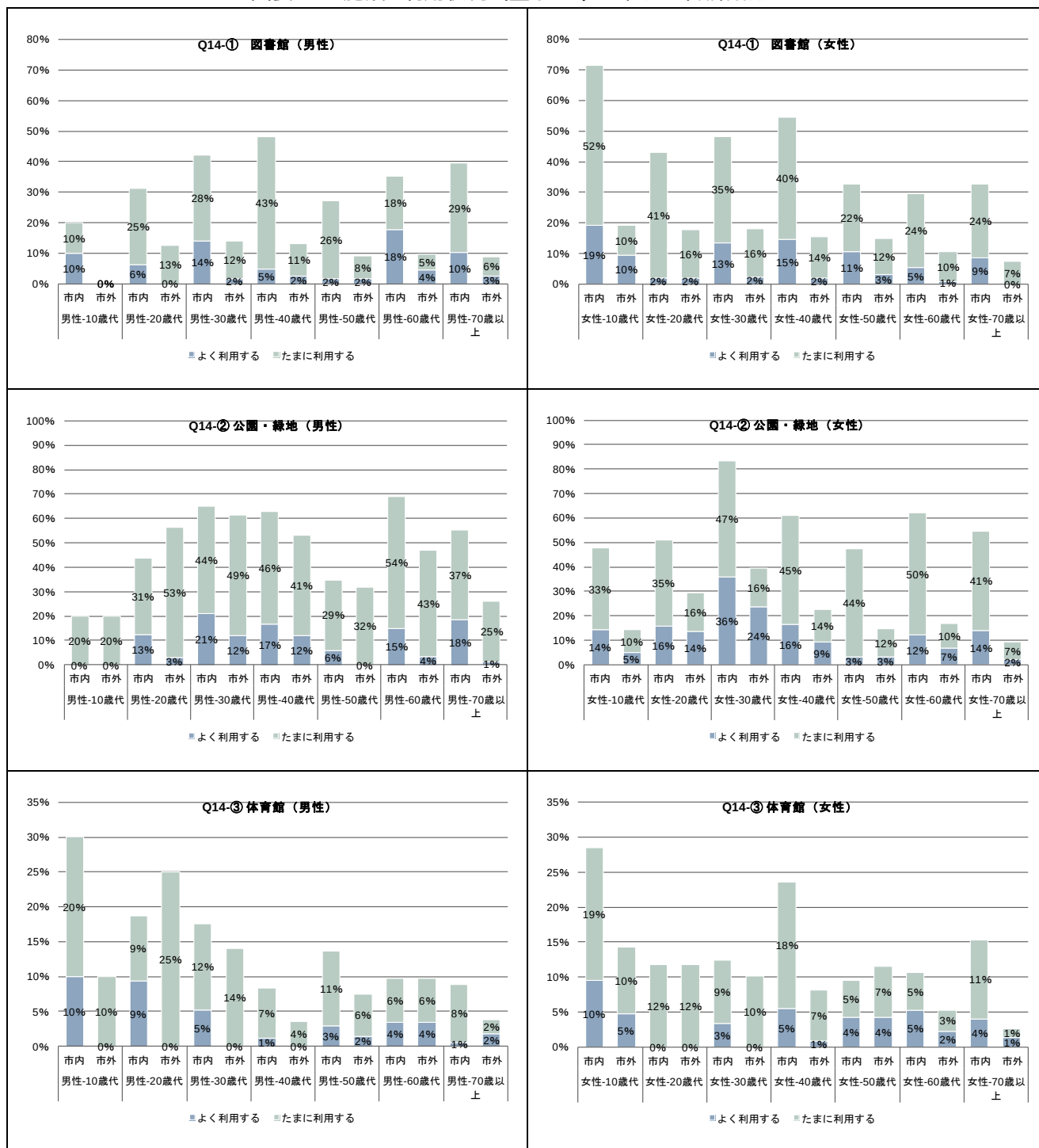


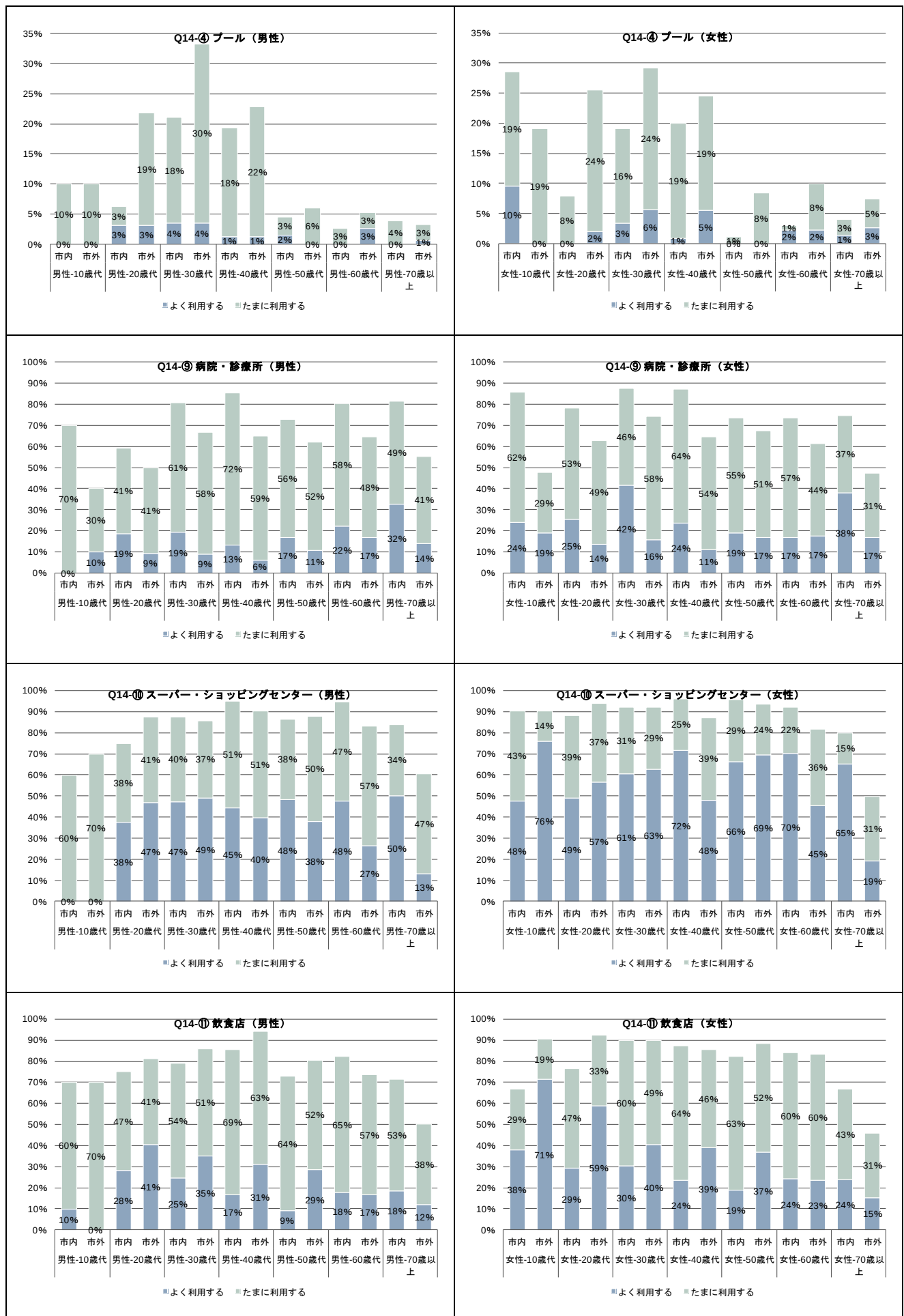


(3) 施設の利用状況（主なもの）＜性別・年齢階級別＞

- 「図書館」や「プール」は40歳代より下の世代の利用が多く、特に「プール」は市外に流出する傾向が見られる。
- 「スーパー・ショッピングセンター」や「飲食店」は、性別・年齢を問わず、市内・市外ともに高いことから、市域にこだわらず頻繁に利用していると推察される。
- 「飲食店」は男性よりも女性の利用が多く、特に20歳代よりも下の年代では、市外の施設をよく利用している。

図表 28 施設の利用状況（主なもの）＜性別・年齢階級別＞

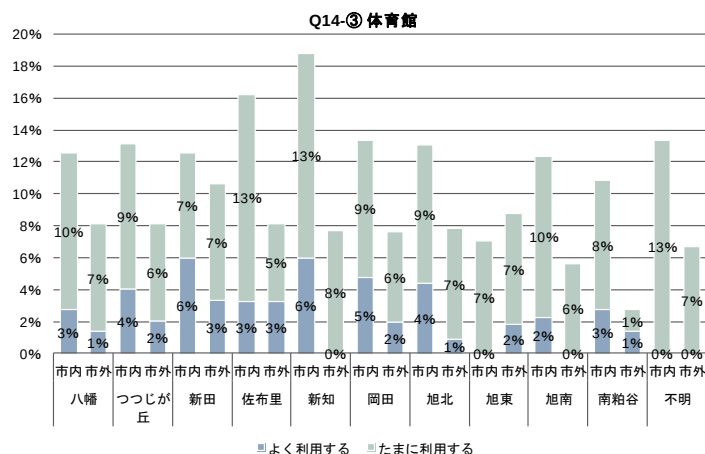
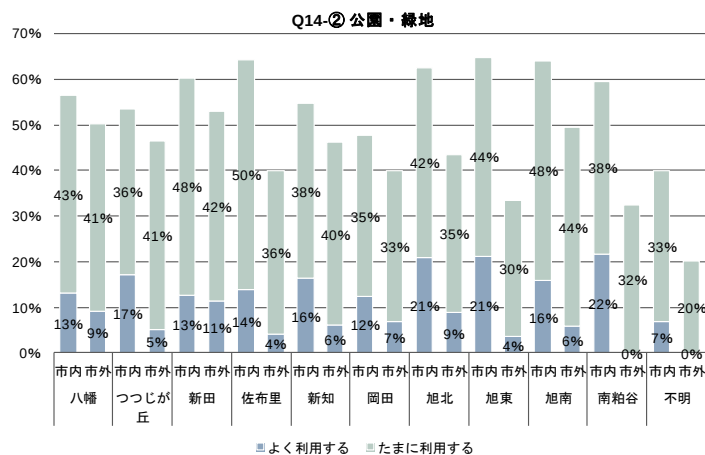
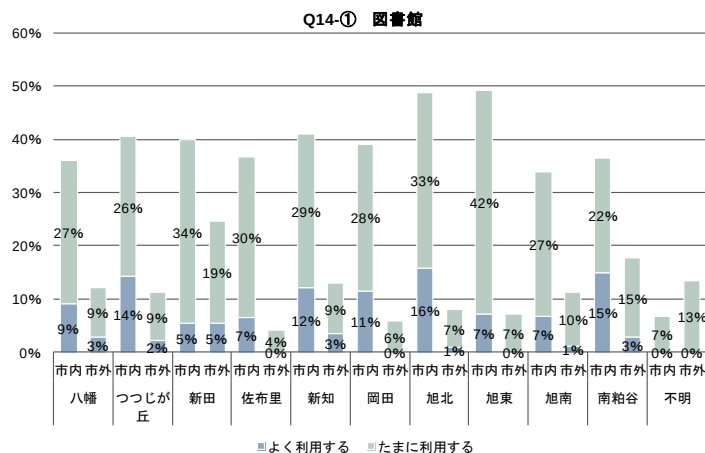


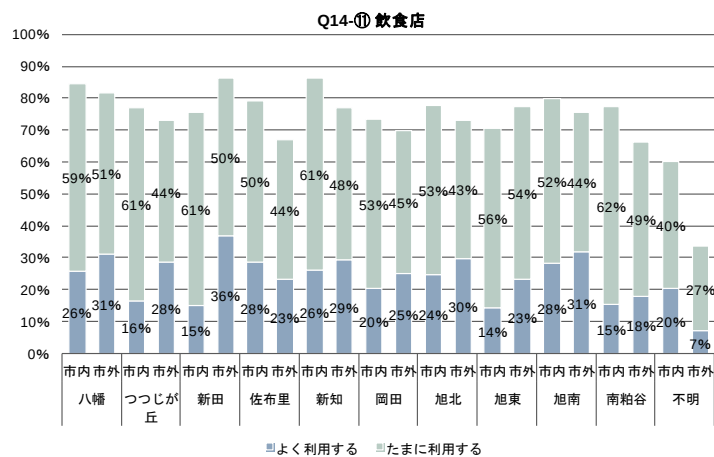
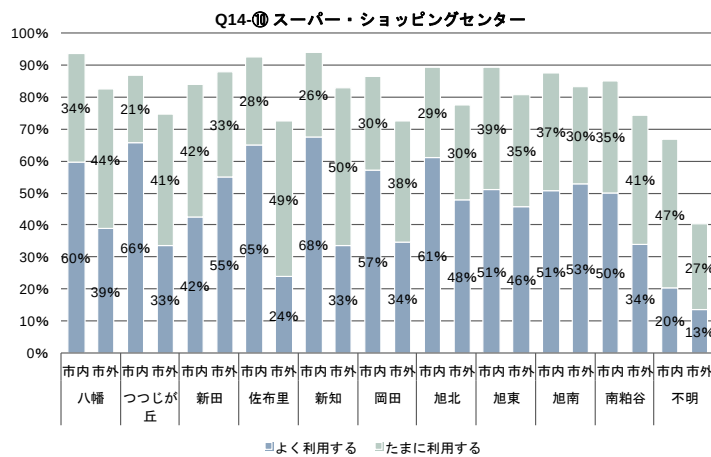
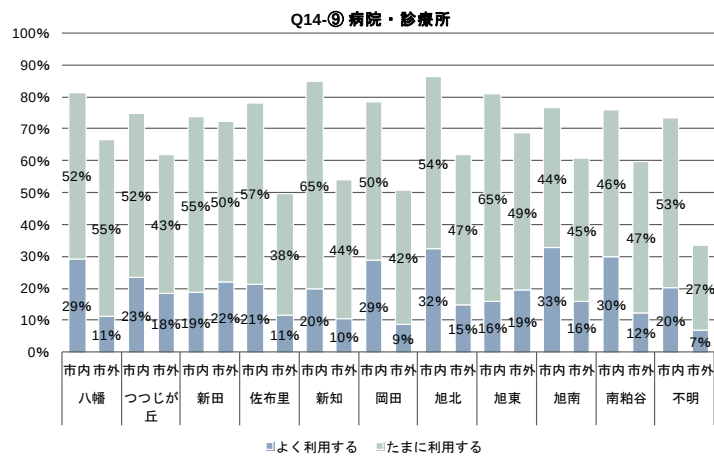
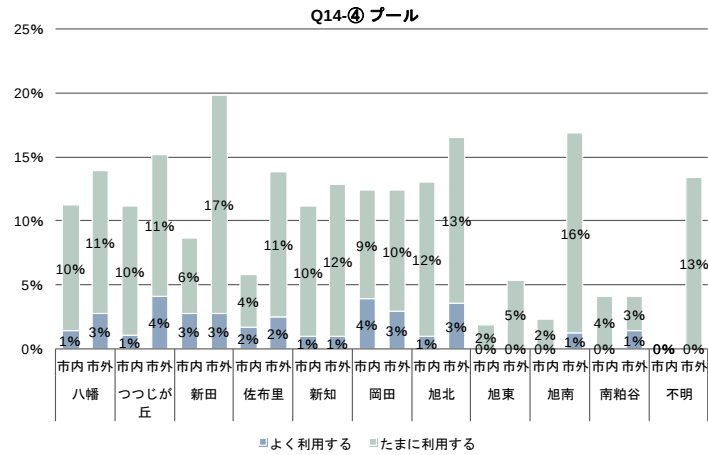


(4) 施設の利用状況（主なもの）＜地区別＞

- ・ 地区による施設利用傾向に大きな違いは見られない。

図表 29 施設の利用状況（主なもの）＜地区別＞

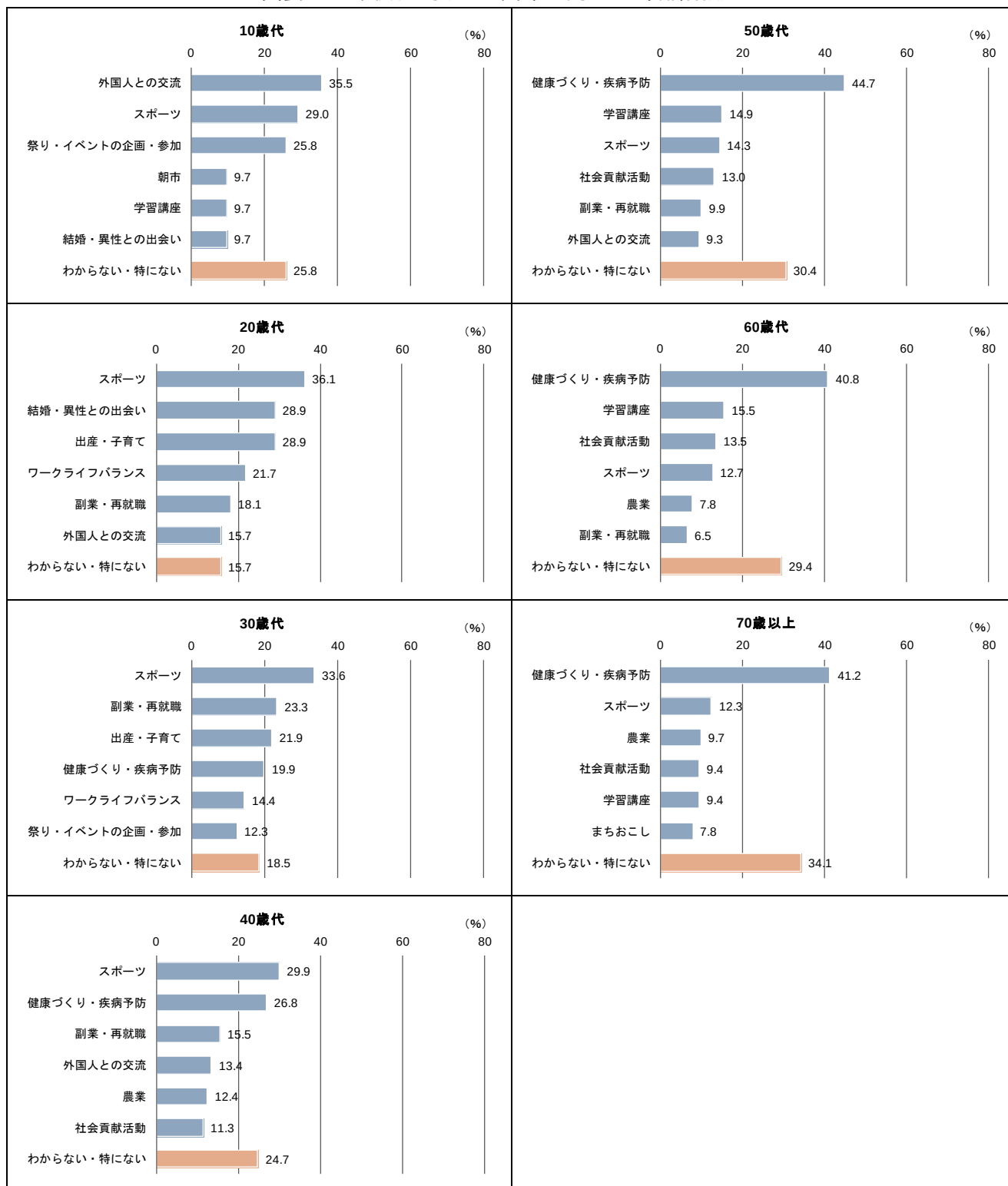




(5) 今後やってみたい・興味のあること＜年齢階級別＞

- ・ 20 歳代から 40 歳代は、「スポーツ」が最も多い。
- ・ 50 歳代より上の世代では、「健康づくり・疾病予防」がスポーツを上回って最も多くなった。
- ・ 50 歳代と 60 歳代では、健康づくり・疾病予防に次いで「学習講座」が多くなった。
- ・ 20 歳代は、「結婚・異性との出会い」や「出産・子育て」が多い。「出産・子育て」は 30 歳代も多い。
- ・ 20 歳代から 40 歳代では、「副業・再就職」も多い。

図表 30 今後やってみたい・興味のあること＜年齢階級別＞

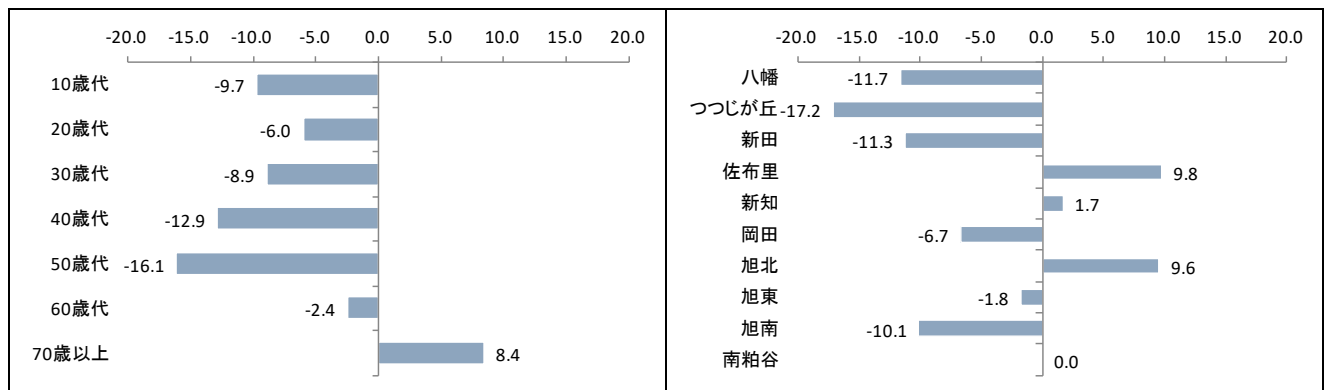


7. 知多市のイメージについて

(1) 知多市のイメージのよさ<年齢階級別>

- ・ 年齢階級が高くなる程、悪いイメージを持つ人が増加する傾向にあり、50歳代のイメージが最も悪い。
- ・ 70歳代によるイメージは良く、60歳代も良いイメージを持つ人とそうでない人が拮抗している。
- ・ 20歳代によるイメージもそれほど悪いものではない。

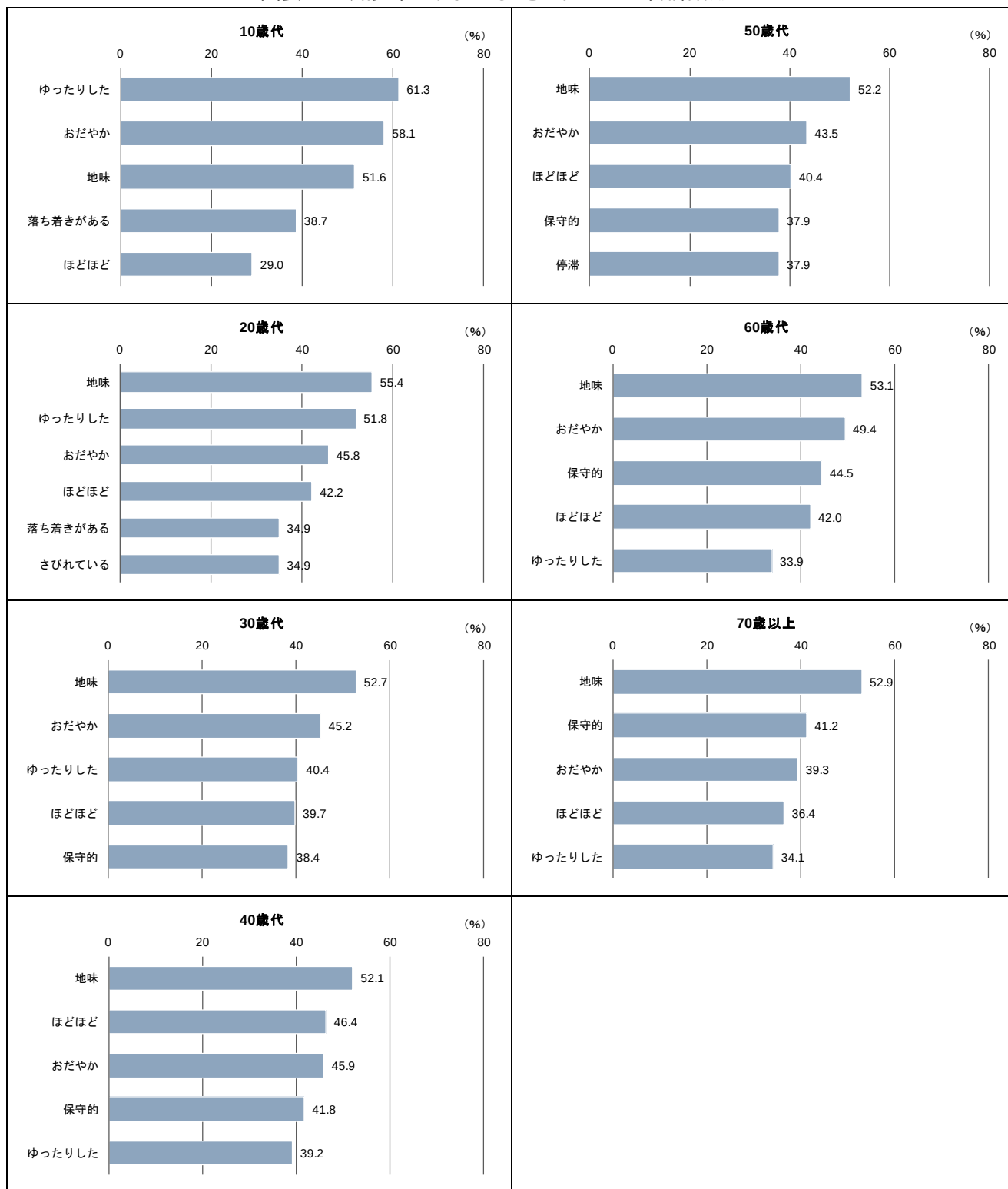
図表 31 知多市のイメージのよさ<左：年齢階級別、右：地区別>



(2) 知多市にあてはまると思うイメージ＜年齢階級別＞

- ・ 性別・年齢を問わず「地味」や「おだやか」、「ゆったりした」、「ほどほど」が上位を占める。
- ・ 男性で 20 歳代より下の年齢階級では、「落ち着きがある」が多い。

図表 32 知多市にあてはまると思うイメージ＜年齢階級別＞

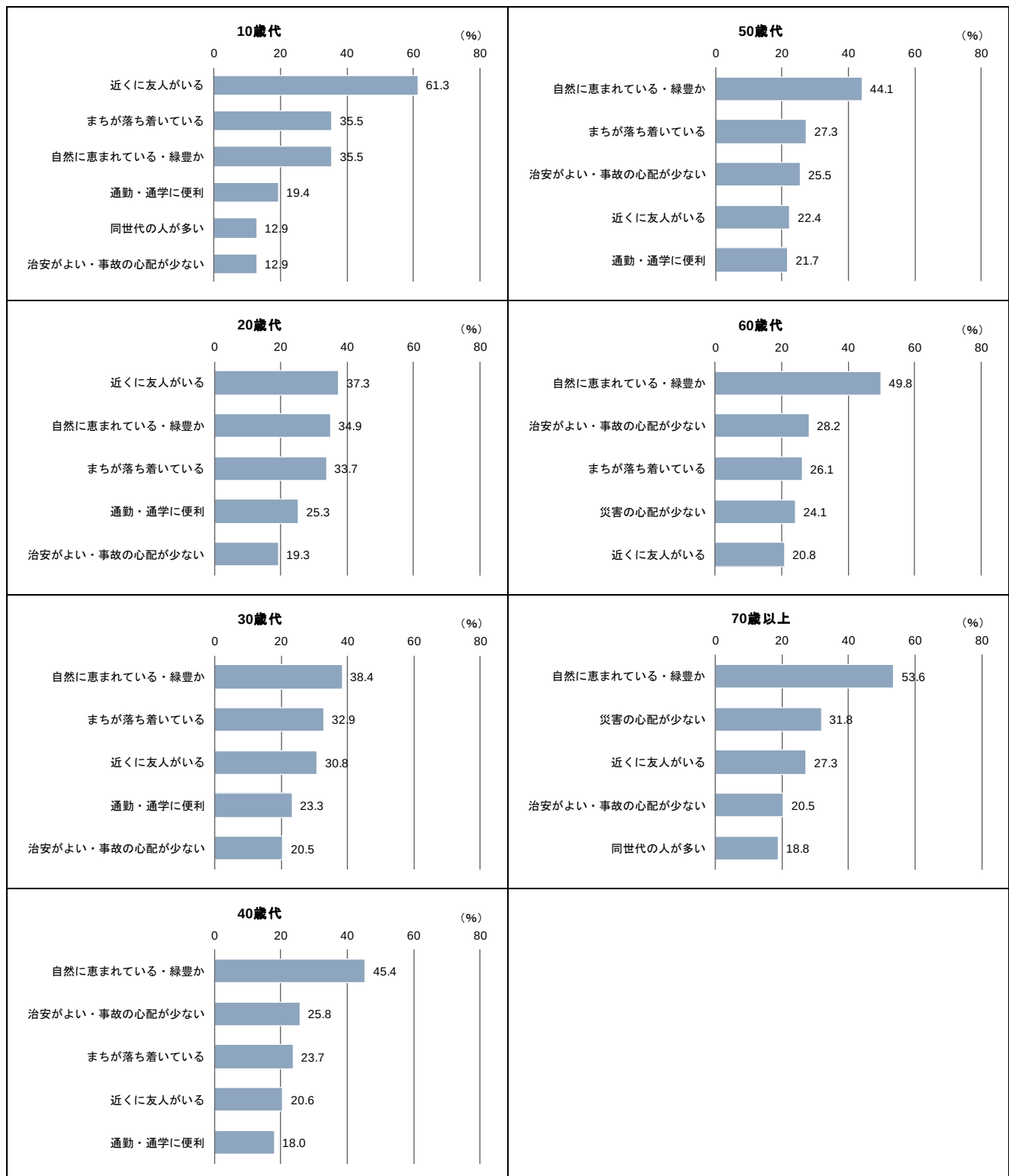


8. 生活環境に対する評価について

(1) 知多市で生活していてよいと思うところ＜年齢階級別＞

- ・ 性別・年齢を問わず、「自然に恵まれている・緑豊か」が多く、特に50歳代より上の年齢階級から支持されている。
- ・ 「まちが落ち着いている」も、性別・年齢に関係なく多い。
- ・ 20歳代より下の年齢階級では、「近くに友人がいる」が最も多くなる。
- ・ 60歳代より上の年齢階級では、「災害の心配が少ない」が多い。

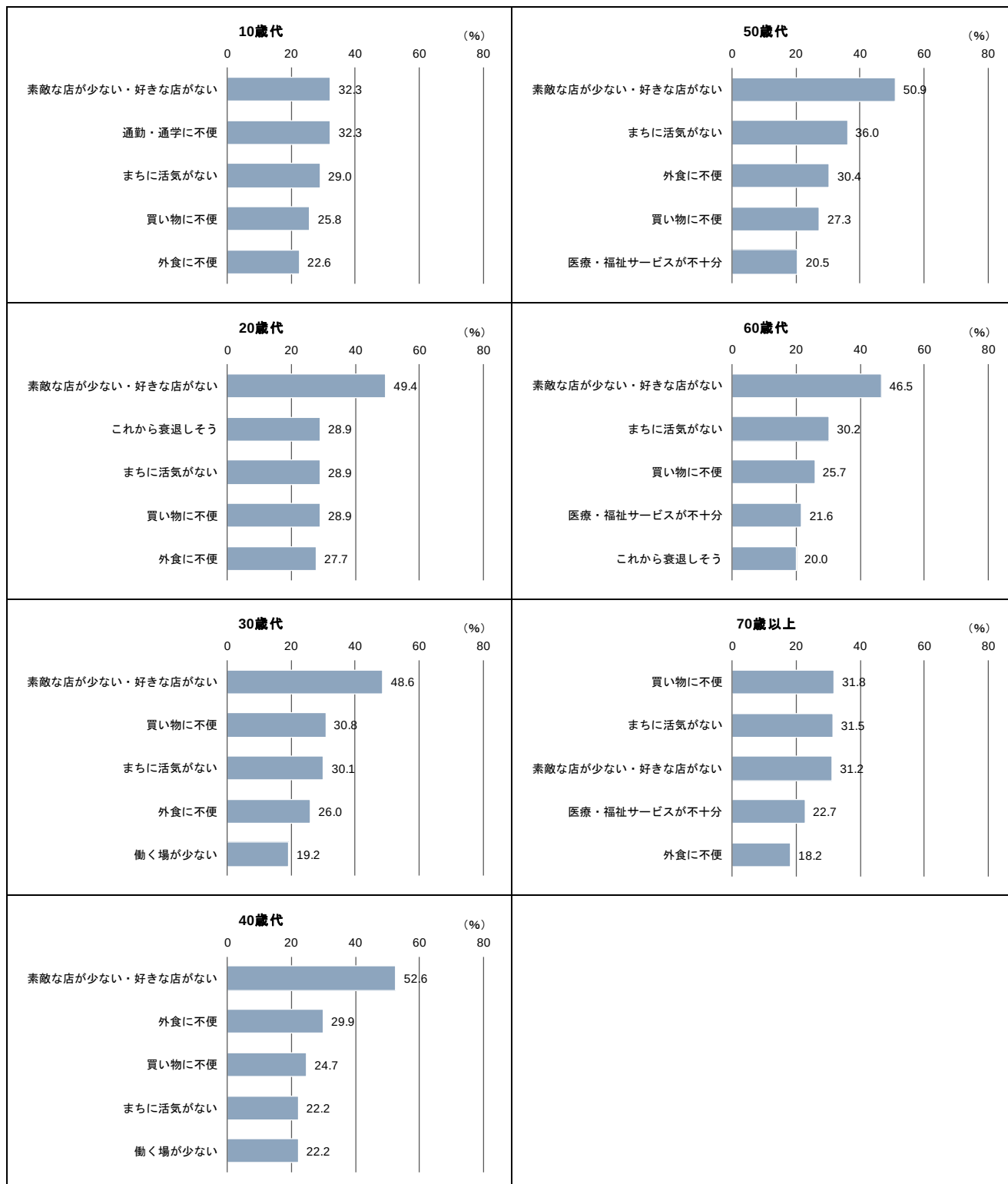
図表 33 知多市で生活していてよいと思うところ＜年齢階級別＞



(2) 知多市で生活していて嫌だと思うところ＜年齢階級別＞

- ・ 70 歳以上を除いて、「素敵な店が少ない・好きな店がない」が最も多い。
- ・ 70 歳以上で、「買い物に不便」が最も多くなったことをはじめ、全ての年齢階級でも上位に入る。また、「外食に不便」や「まちに活気がない」も多い。
- ・ 30 歳代や 40 歳代では、「働く場がない」も多くなった。

図表 34 知多市で生活していて嫌だと思うところ＜年齢階級別＞



(3) 知多市より暮らしやすそうと思う近隣のまち＜年齢階級別＞

- ・ 70 歳以上で「ない。知多市が一番」が最も多くなった以外は、「東海市」が大きく上回った。
- ・ 40 歳代より下の年齢階級では、知多市より暮らしやすそうと思うまち上位 5 市が、「ない。知多市が一番」を上回った。

図表 35 知多市より暮らしやすそうと思う近隣のまち＜年齢階級別＞

